

上智大学大学院応用データサイエンス学位プログラム

学生確保の見通し等を記載した書類 添付資料

目 次

資料 1	立教大学大学院 人工知能科学研究科 在籍学生数および教員数
資料 2	ニーズ調査報告書（事業所編）
資料 3	ニーズ調査報告書（学部生編）
資料 4	ニーズ調査設問項目（事業所編）
資料 5	ニーズ調査設問項目（学部生編）
資料 6	2022 年度春学期全学共通科目「データサイエンス概論」授業アンケート集計結果
資料 7	「ソフィア・プロフェッショナルスタディーズ」2022 年度開講スケジュール
資料 8	データサイエンティストの確保状況
資料 9	企業におけるデータサイエンス分野人材の今後の動向について
資料 10	データサイエンス系学部の動向
資料 11	大学における指導者不足の問題
資料 12	企業におけるデータサイエンス分野人材の状況について
資料 13	DX 人材育成の課題
資料 14	DX 人材育成に関する国の取り組み
資料 15	IT 分野の人材不足見込み 1
資料 16	IT 分野の人材不足見込み 2
資料 17	2050 年の労働需要の推計
資料 18	学ぶ意欲がある人への支援
資料 19	学ぶ直しに係る企業の事例紹介
資料 20	リスキリングの場と機会の形成について
資料 21	修士・博士人材の官公庁での受け入れ
資料 22	AI 戦略 2019
資料 23	AI 戦略 2022
資料 24	滋賀大学大学院の事例

【資料1】 立教大学大学院 人工知能科学研究科 在籍学生数および教員数

在籍者数

■2021 年度

区分	学部・学科等の名称	入学定員	収容定員	在籍数	
大学院	前期課程				
	文学研究科	94	188	72	
	経済学研究科	40	80	55	
	理学研究科	60	120	108	
	社会学研究科	20	40	40	
	法学研究科	20	40	16	
	観光学研究科	20	40	26	
	コミュニティ福祉学研究科	25	50	17	
	ビジネスデザイン研究科	90	180	204	
	21世紀社会デザイン研究科	50	100	94	
	異文化コミュニケーション研究	20	40	28	
	経営学研究科	60	120	93	
	現代心理学研究科	40	80	45	
	キリスト教学研究科	10	20	19	
		人工知能科学研究科	63	126	132
	後期課程	文学研究科	34	102	66
		経済学研究科	10	30	10
		理学研究科	15	45	13
		社会学研究科	10	30	15
		法学研究科	10	30	6
		観光学研究科	8	24	8
		コミュニティ福祉学研究科	5	15	17
		ビジネスデザイン研究科	5	15	16
21世紀社会デザイン研究科		5	15	9	
異文化コミュニケーション研究		5	15	17	
経営学研究科		5	15	11	
現代心理学研究科		11	33	7	
	キリスト教学研究科	5	15	9	
	小計	740	1,608	1,153	
専門職大学院	法務研究科	0	0	0	

出典：立教大学 公式ウェブサイト 2021 年度 立教大学院事業報告書

3. 設置する学校・学部・学科名称、入学定員および在籍者数

<https://www.rikkyogakuin.jp/disclosure/reports/fr9ga2000000189a-att/jigyoku2021h.pdf>

(令和 4 年 9 月 1 日閲覧)

■2022 年度

2022年度[大学院学生]在籍者数 (5月1日現在) / Student Enrollment[Graduate](As of May. 1, 2022)

大学院	研究科名 Graduate School	学科名 Graduate Program	性別 sex	1年次 1st Year	2年次 2nd Year	3年次 3rd Year	4年次 4th Year	5年次 5th Year	6年次 6th Year	計 Total
	人工知能科学研究科 Artificial Intelligence and Science	人工知能科学専攻 Artificial Intelligence and Science	男 (M)	45	51	9	0	0	0	105
			女 (F)	0	7	3	0	0	0	10
			計 (T)	45	58	12	0	0	0	115
		計 Total	男 Male	45	51	9	0	0	0	105
			女 Female	0	7	3	0	0	0	10
			計 Total	45	58	12	0	0	0	115

出典：立教大学 公式ウェブサイト 教育情報の公表 学生数 (大学院：2022 年 5 月 1 日現在)

https://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/qo9edr00000081kh-att/zaigaku_g.pdf

(令和 4 年 9 月 1 日閲覧)

教員数

■2022 年度

教員数 (2022.5.1現在)

	教授		准教授		講師		カウンセラー		チャプレン		小計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
文学研究科													
経済学研究科													
理学研究科													
経営学研究科													
電気コミュニケーション研究科													
ビジネスデザイン研究科													
21世紀社会デザイン研究科													
人工知能科学研究科													
キリスト教学研究科													

助教A		助教B		助教T		助教D		助教R		特任教授		特任准教授		教育講師		英語特定講師		客員教員 在外招聘		兼任講師		合計		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
										1											2		1	2
										4													4	0
										1		2											3	0
																	5						5	0
																					2	3	2	3
1										6	2	1					14	2		19	2	41	6	
1										3	2	2					8			16	5	30	7	
										3		1					4			14	2	22	2	
										1	1									8	3	9	4	

出典：立教大学 公式ウェブサイト 教育情報の公表 教員数 (2022年5月1日現在)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/qo9edr00000081kh-att/kyouin.pdf>

(令和4年9月1日閲覧)

上智大学大学院 データサイエンス系連携課程新設に係る
ニーズ調査報告書(事業所編)

2022 年 9 月

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

目次

1. 調査概要.....	2
2. 調査・分析結果の要旨.....	3
3. 全体集計結果.....	5

1. 調査概要

(1) 調査目的

上智大学大学院 データサイエンス系連携課程新設計画検討のため、本アンケート調査により事業所の人材需要等を把握し、連携課程新設計画の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査対象

社会人向け集中研修プログラム「ソフィア・プロフェッショナルスタディーズ」会員企業

(3) 実施時期

2022年8月8日～2022年8月26日

(4) 回収状況

本調査では22事業所を対象にアンケート調査票を配信し、22件のアンケートを回収することが出来た(回収率100.0%)。

(5) 調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

(6) 利用調査票

別紙アンケート調査票参照

2. 調査・分析結果の要旨

(1) 調査結果の要旨

①業種

業種入力によって回答企業を特定できてしまう可能性があり、入力不要としたため、回答結果無し。

②大学院での学びに対する支援制度の有無

回答事業所の大学院での学びに対する支援制度の有無は、「制度を設けており、実績もある。」が13事業所(59.1%)と最も多く、次いで「制度を設けていない。」4事業所(18.2%)、「制度は現在ないが、設計を検討している。」3事業所(13.6%)と続いている。

③大学院への社員派遣意向・意欲ある社員への支援意向

回答事業所の大学院への社員派遣意向・意欲ある社員への支援意向は、「ある」13事業所(59.1%)が最も多く、次いで「わからない」9事業所(40.9%)となっており、「ない」と回答した事業所はなかった。

④大学院での学びに対する興味関心理由

回答事業所の大学院での学びに対する興味関心理由は、「ビジネス界の現状やデータの分析・活用に係る知見の獲得」11事業所(50.0%)が最も多く、「データサイエンス関連分野・データ分析関係のスキルアップ(研修の一環)」9事業所(40.9%)、「学術的観点によるデータサイエンスに係る広範な知識の修得希望」2事業所(9.1%)と続いている。

⑤大学院での学びにおいて興味関心のある科目

回答事業所の大学院での学びにおいて興味関心のある科目は、「ビッグデータ解析・活用、データドリブン」が21事業所(36.8%)で最も多く、「機械学習・深層学習」11事業所(19.3%)、「インターンシップ(企業データ取り扱いや、課題解決等のプロジェクトへの参加)」が9事業所(15.8%)と続いている。

⑥大学院進学時の重視点

回答事業所の大学院進学時の重視点は、「実践力(実務力)を養うことができる」と「仕事をしながら修了できる」がそれぞれ17事業所(23.9%)と最も多く、次いで「データサイエンスに係る知識を体系的に身につけることができる」11事業所(15.5%)となっている。

⑦上智大学大学院 データサイエンス系連携課程への社員派遣意向

回答事業所の上智大学大学院 データサイエンス系連携課程への社員派遣意向について、「わからない」11事業所(50.0%)が最も多く、「毎年1名程度が見込まれる。」7事業

所(31.8%)、「2～3年に1名程度が見込まれる。」3事業所(13.6%)、「毎年複数名が見込まれる。」1事業所(4.5%)と続いている。

(2)分析結果の要旨

回答事業所において、大学院での学びに対する支援制度の有無は、「制度を設けており、実績もある」が13事業所(59.1%)と最も多く、約6割の事業所で制度が整備されており、活用する事例もあることが分かる。

また、大学院に設置された応用データサイエンス学位プログラムに対し自社の社員を派遣する意向があるか、また、学びたいという社員への支援を行うことに興味があるか、という設問に対しても、13事業所(59.1%)が「ある」と回答しており、大学院での学びに興味関心を持っている企業が多いことが分かる。

大学院での学びに興味を持った理由は、「ビジネス界の現状やデータの分析・活用に係る知見の獲得」11事業所(50.0%)が最も多く全体の50%を占め、ビジネスへの活用を見越した学びに期待していることが窺われる。

更に、実際に大学院で学ぶという場合に関心のある科目は、「ビッグデータ解析・活用、データドリブン」が21事業所(36.8%)で最も多く、「機械学習・深層学習」11事業所(19.3%)、「インターンシップ(企業データ取り扱いや、課題解決等のプロジェクトへの参加)」が9事業所(15.8%)と続いており、ここでも実際のビジネスにおける活用や、インターンシップでの現場経験によるスキルアップに関心があることが窺われる。

大学院での学びに求めるポイントは、「実践力(実務力)を養うことができる」と「仕事をしながら修了できる」がそれぞれ17事業所(23.9%)と最も多く、ビジネスの現場での活用が第一に求められていると同時に、仕事をしながら学べ、学んだことをすぐにでも仕事に取り入れたいと考えていることが窺われる。

大学院での学びに対して関心を持っており、支援制度を設けている企業が半数を超えている状況ではあるが、回答事業所の上智大学大学院 データサイエンス系連携課程への社員派遣意向は、「わからない」11事業所(50.0%)が最も多く半数を占めていることから、今後、企業との連携によって、当該課程で養成する人材像や身につけさせる能力等、教育研究内容の詳細について周知することで人材需要の掘り起こしを行うことが望まれる。

3. 全体集計結果

Q1) 業種

業種入力によって回答企業を特定できてしまう可能性があり、入力不要としたため、回答結果無し。

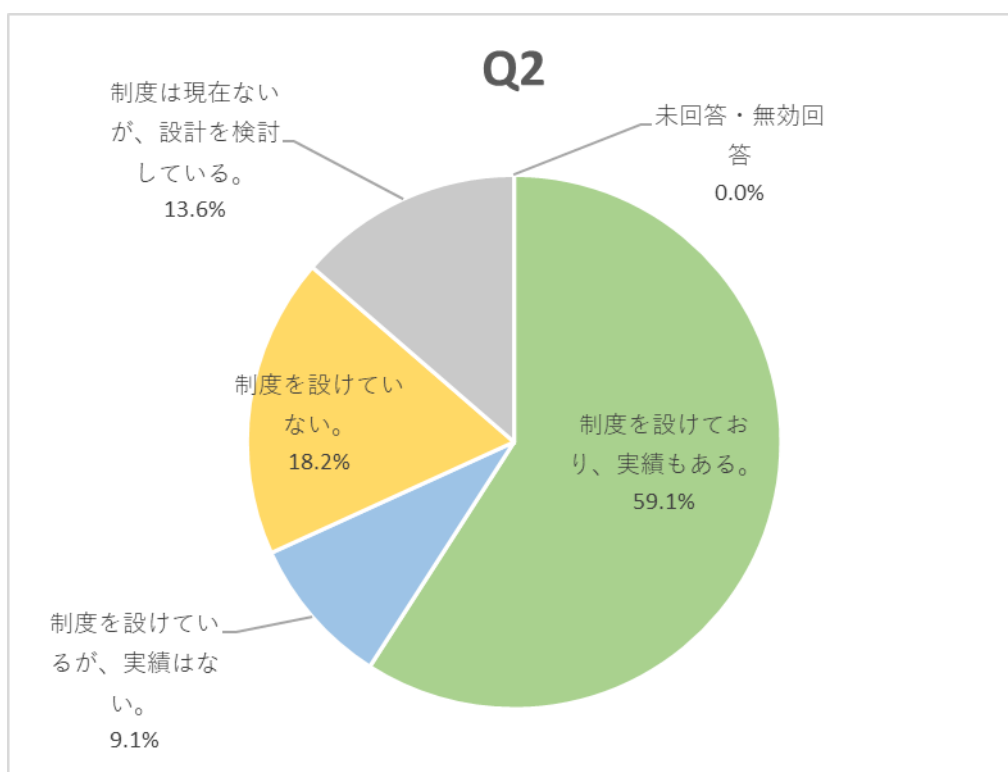
Q1) ご所属される企業の業種についてお答えください。

Q2) 大学院での学びに対する支援制度の有無

回答事業所の大学院での学びに対する支援制度の有無は、「制度を設けており、実績もある。」が13事業所(59.1%)と最も多く、次いで「制度を設けていない。」4事業所(18.2%)、「制度は現在ないが、設計を検討している。」3事業所(13.6%)と続いている。

Q2) 御社では、社員の方々が大学院で学ぶ際の支援制度はございますでしょうか？

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	22	100.0%
制度を設けており、実績もある。	13	59.1%
制度を設けているが、実績はない。	2	9.1%
制度を設けていない。	4	18.2%
制度は現在ないが、設計を検討している。	3	13.6%
未回答・無効回答	0	0.0%



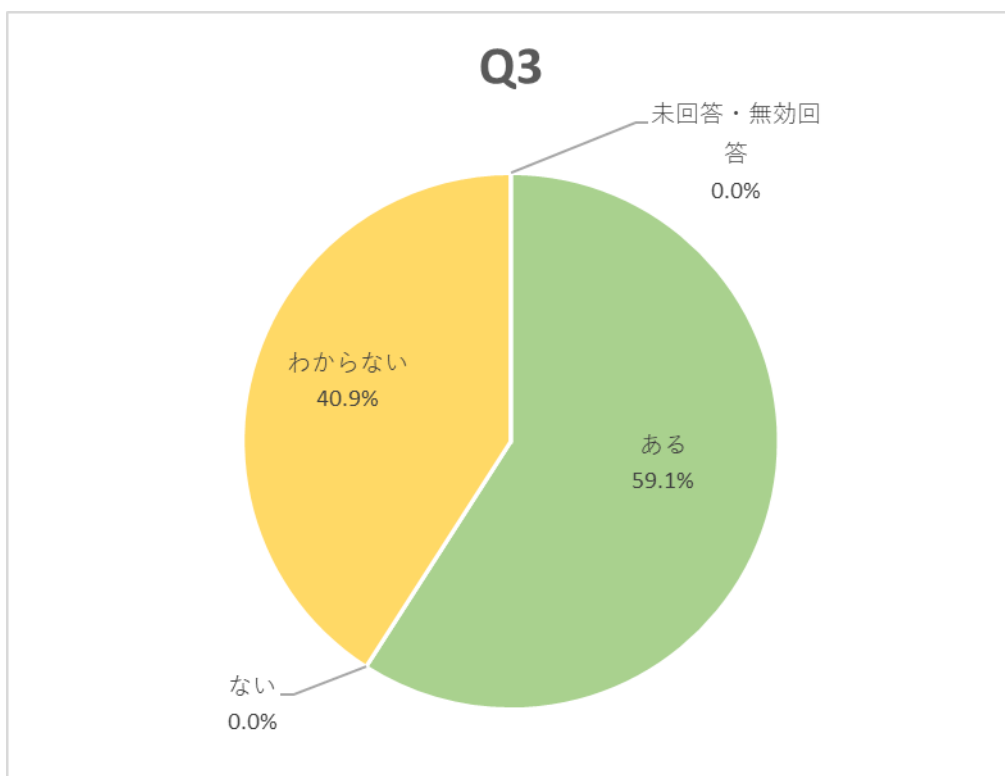
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q3) 大学院への社員派遣意向・意欲ある社員への支援意向

回答事業所の大学院への社員派遣意向・意欲ある社員への支援意向は、「ある」13 事業所 (59.1%) が最も多く、次いで「わからない」9 事業所 (40.9%) となっており、「ない」と回答した事業所はなかった。

Q3) 大学院に応用データサイエンス学位プログラムが設置されたと仮定し、以下にお答えください。このような大学院へ御社の社員を派遣する、もしくは学びたいという社員に対して支援を行うことに対して興味はおありでしょうか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	22	100.0%
ある	13	59.1%
ない	0	0.0%
わからない	9	40.9%
未回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4) 大学院での学びに対する興味関心理由

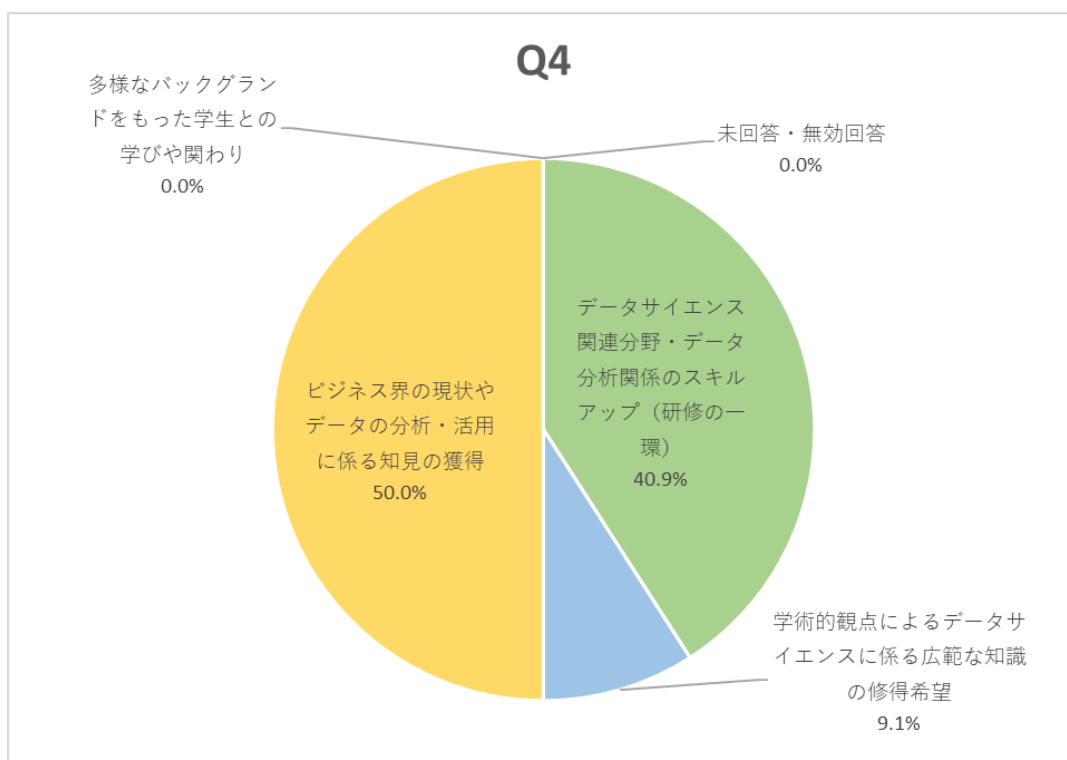
回答事業所の大学院での学びに対する興味関心理由は、「ビジネス界の現状やデータの分析・活用に係る知見の獲得」11 事業所 (50.0%) が最も多く、「データサイエンス関連分野・データ分析関係のスキルアップ(研修の一環)」9 事業所 (40.9%)、「学術的観点によるデータサイエンスに係る広範な知識の修得希望」2 事業所 (9.1%) と続いている。

(以降の設問は、前問で「ある」と答えた方にお伺いします。

「わからない」とお答えの場合も、近い選択肢によりご回答をいただければ幸いです)

Q4) 興味を持った理由をひとつ教えてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	22	100.0%
データサイエンス関連分野・データ分析関係のスキルアップ(研修の一環)	9	40.9%
学術的観点によるデータサイエンスに係る広範な知識の修得希望	2	9.1%
ビジネス界の現状やデータの分析・活用に係る知見の獲得	11	50.0%
多様なバックグラウンドをもった学生との学びや関わり	0	0.0%
未回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5) 大学院での学びにおいて興味関心のある科目 *複数選択可

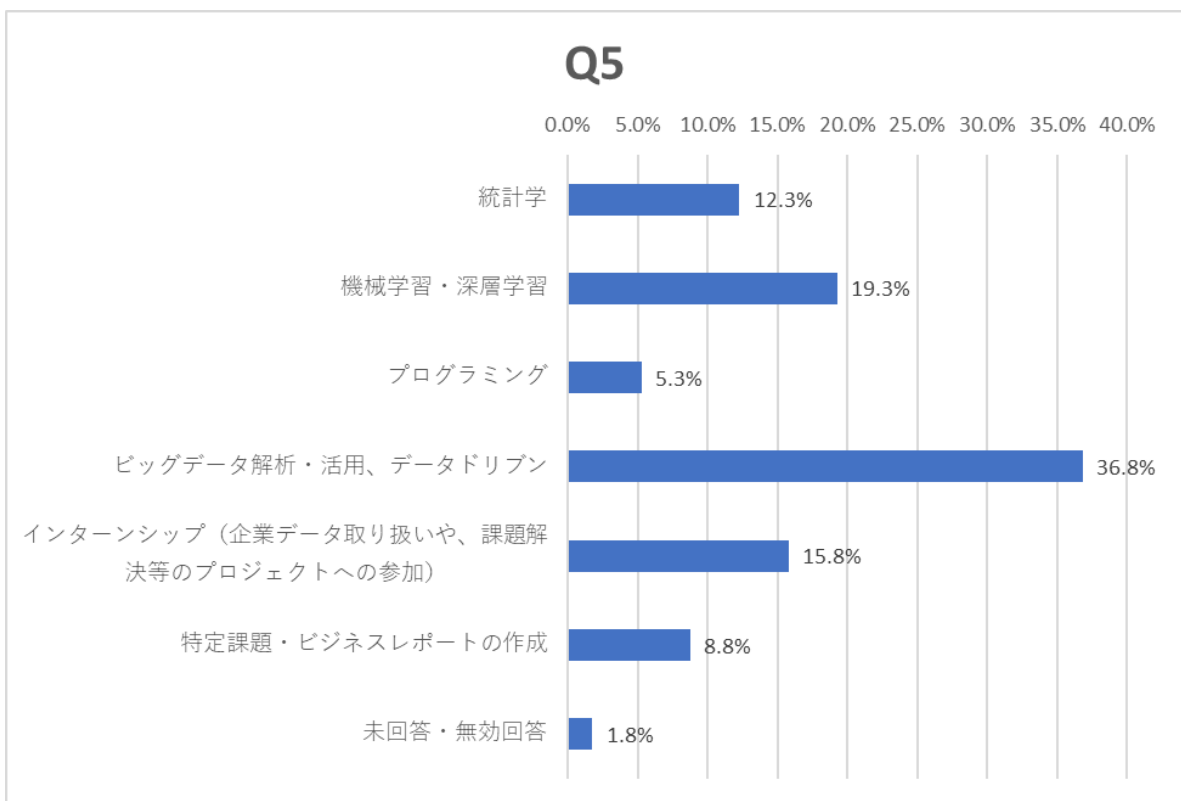
回答事業所の大学院での学びにおいて興味関心のある科目は、「ビッグデータ解析・活用、データドリブン」が21事業所(36.8%)で最も多く、「機械学習・深層学習」11事業所(19.3%)、「インターンシップ(企業データ取り扱いや、課題解決等のプロジェクトへの参加)」が9事業所(15.8%)と続いている。

Q5) このような大学院に入学した場合、どのような科目に特に関心がありますか？(複数回答可)

開講予定科目一覧は下記画像参照ください。この科目群から30単位を取得することと、修士論文に相当する特定課題・プロジェクトペーパーの提出が修了要件となります。

科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称
必修科目	データサイエンス概論	選択科目	プログラミングA (SQL)	選択科目 (続き)	政策・事業評価	連携科目	ミクロ経済学特講Ⅰ
	導入演習		プログラミングB (R)		市場と環境へのデータサイエンスアプローチ		ミクロ経済学特講Ⅱ
	演習A-1		プログラミングC (Python基礎)		データビジネス実践1(金融)		環境経済学特講Ⅰ
	演習A-2		プログラミングD (Python応用)		データビジネス実践2(通信)		環境経済学特講Ⅱ
	演習B-1		データエンジニアリング概論		データビジネス実践3(スポーツ・スポーツビジネス)		統計学特講Ⅱ
演習B-2	データエンジニアリング実践		データビジネス実践4(製造)		数理経済分析特講Ⅰ		
	データサイエンス数学		データビジネス実践5(保険)		数理経済分析特講Ⅱ		
	データの可視化と分析		インターンシップ		財務会計論特講Ⅰ		
	機械学習入門				財務会計論特講Ⅱ		
	深層学習の基礎と応用				経営財務論特講Ⅰ		
	データドリブンマネジメント			経営財務論特講Ⅱ			
	データリスクマネジメント			経営戦略論特講Ⅰ			
	情報通信産業とデータサイエンス			経営戦略論特講Ⅱ			
	予測モデル構築			マーケティング戦略論特講Ⅰ			
	ビッグデータアナリティクス			マーケティング戦略論特講Ⅱ			
	プロセスマイニング原論			製品開発論特講Ⅱ			
	生産性と企業価値のマネジメント			COMPUTER SCIENCE			
	AI倫理とバイアス			マシンインテリジェンス			
	ビジネス最適化のための人工知能			センシングシステム工学			
	コミュニケーションマネジメント			データサイエンス特論			
	ブランド戦略マネジメント			経営情報分析特論			
	戦略思考と意思決定			視覚メディア処理特論			
	データドリブンマーケティング			研究指導 (研究指導)			

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	57	100.0%
統計学	7	12.3%
機械学習・深層学習	11	19.3%
プログラミング	3	5.3%
ビッグデータ解析・活用、データドリブン	21	36.8%
インターンシップ(企業データ取り扱いや、課題解決等のプロジェクトへの参加)	9	15.8%
特定課題・ビジネスレポートの作成	5	8.8%
未回答・無効回答	1	1.8%



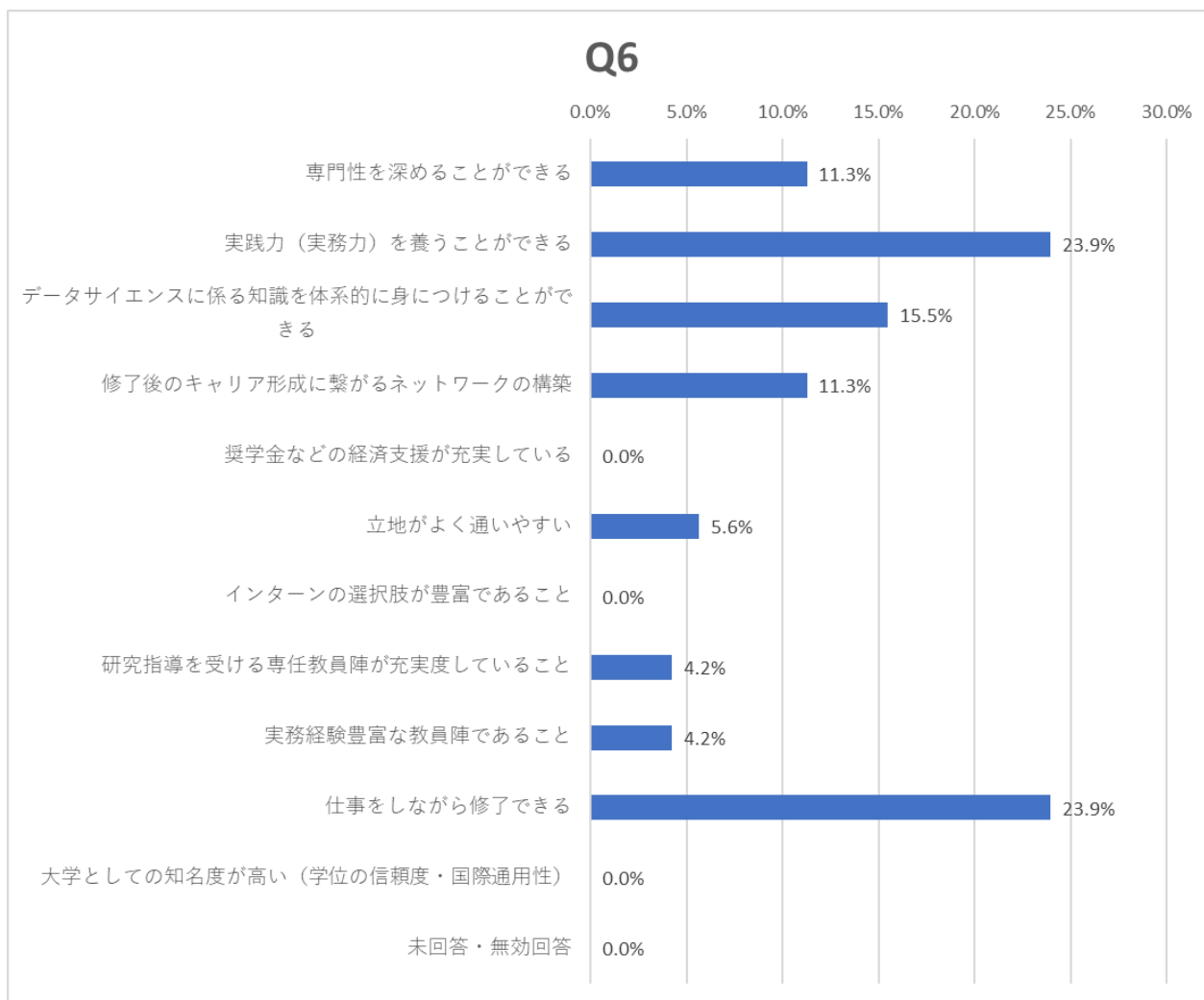
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q6) 大学院進学時の重視点

回答事業所の大学院進学時の重視点は、「実践力（実務力）を養うことができる」と「仕事をしながら修了できる」がそれぞれ 17 事業所 (23.9%) と最も多く、次いで「データサイエンスに係る知識を体系的に身につけることができる」11 事業所 (15.5%) となっている。

Q6) このような大学院に求めるポイントや魅力を次のうちから 3 つ挙げてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	71	100.0%
専門性を深めることができる	8	11.3%
実践力(実務力)を養うことができる	17	23.9%
データサイエンスに係る知識を体系的に身につけることができる	11	15.5%
修了後のキャリア形成に繋がるネットワークの構築	8	11.3%
奨学金などの経済支援が充実している	0	0.0%
立地がよく通いやすい	4	5.6%
インターンの選択肢が豊富であること	0	0.0%
研究指導を受ける専任教員陣が充実度していること	3	4.2%
実務経験豊富な教員陣であること	3	4.2%
仕事をしながら修了できる	17	23.9%
大学としての知名度が高い(学位の信頼度・国際通用性)	0	0.0%
未回答・無効回答	0	0.0%



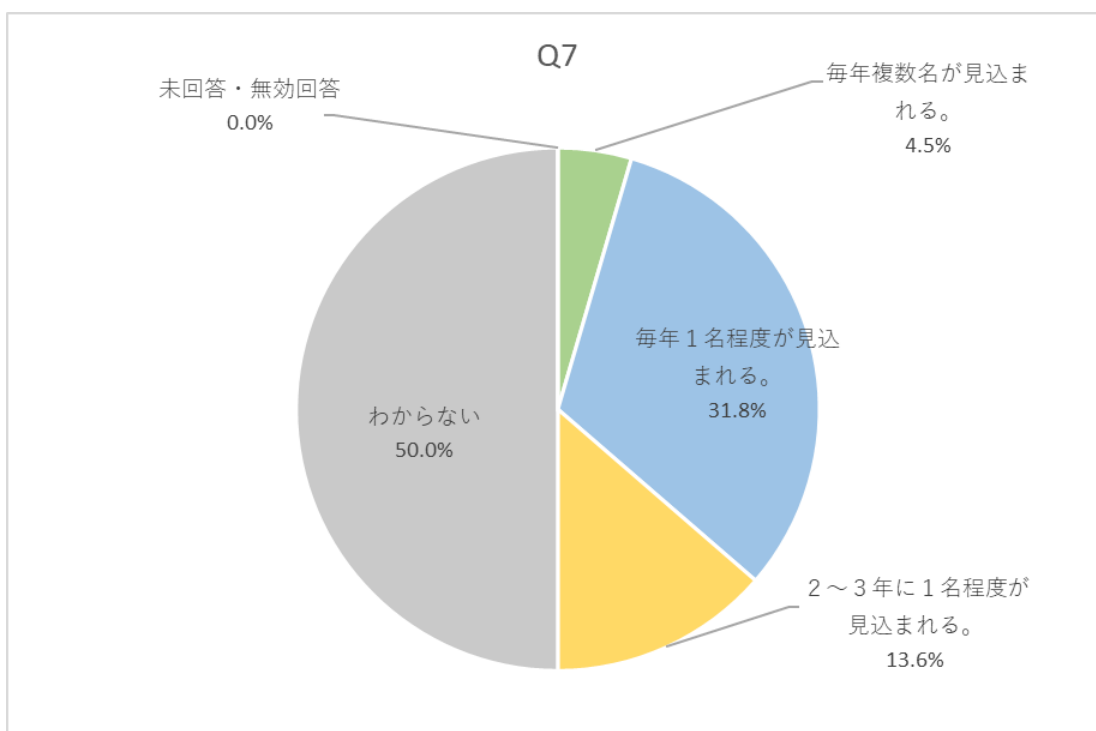
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7) 上智大学大学院 データサイエンス系連携課程への社員派遣意向

回答事業所の上智大学大学院 データサイエンス系連携課程への社員派遣意向について、「わからない」11 事業所 (50.0%) が最も多く、「毎年 1 名程度が見込まれる。」7 事業所 (31.8%)、「2～3 年に 1 名程度が見込まれる。」3 事業所 (13.6%)、「毎年複数名が見込まれる。」1 事業所 (4.5%) と続いている。

Q7) 本学が本プログラムを開設した場合、御社社員が入学する可能性はどの程度ありますでしょうか？

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	22	100.0%
毎年複数名が見込まれる。	1	4.5%
毎年1名程度が見込まれる。	7	31.8%
2～3年に1名程度が見込まれる。	3	13.6%
わからない	11	50.0%
未回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)本アンケートに関連しての意見・要望

Q8)その他：本お伺いに関連した内容で、ご質問やご提言がございましたら、遠慮なくお寄せいただければ幸いです。

ビジネス、業務のDX推進の実践的な知識・スキルが習得できるのであれば、MBA・ビジネススクールに並ぶ学習機会として関心を持ちます。

期間は2年でしょうか？

対象の領域は業界でも待ったなしのテーマと認識しており、引き続き情報提供を頂ければと思います。

弊社からの参加は未定ですが、とても興味深く拝見いたしております。今後とも、よろしくお願いいたします。

上智大学大学院 データサイエンス系連携課程新設に係る
ニーズ調査報告書（学部生編）

2022 年 9 月

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

目次

1. 調査概要	2
2. 調査・分析結果の要旨	3
3. 全体集計結果	5

1. 調査概要

(1) 調査目的

上智大学大学院 データサイエンス系連携課程新設計画検討のため、本アンケート調査により学部生の進学需要等を把握し、連携課程新設計画の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査対象

上智大学に所属する学部学生全員

(3) 実施時期

2022年7月20日～2022年8月31日

(4) 実施方法・回収状況

本調査は、学内の学生向けポータルサイト「Loyola」によるアンケートシステムを用いて実施した。その結果、236件の回答があった。

(5) 調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

(6) 利用調査票

別紙アンケート調査票参照

2. 調査・分析結果の要旨

(1) 調査結果の要旨

① 所属学部

回答者の所属学部は、「理工学部」68人(28.8%)が最も多く、「経済学部」が44人(18.6%)、「外国語学部」32人(13.6%)と続いている。

② 所属学年

回答者の所属学年は、「1年」98人(41.5%)、「2年」55人(23.3%)、「3年」54人(22.9%)、「4年」29人(12.3%)となっている。

③ 学部卒業後の進路

回答者の学部卒業後の進路は、「就職」114人(48.3%)が最も多く半数近くとなっており、「未定」64人(27.1%)、「日本の大学院に進学」53人(22.5%)と続いている。

④ 大学院応用データサイエンス学位プログラムへの進学意向

回答者の大学院応用データサイエンス学位プログラムへの進学意向は、「ある」が95人(40.3%)で最も多く、次いで「ない」82人(34.7%)、「わからない」59人(25.0%)となっている。

⑤ 大学院応用データサイエンス学位プログラムに対する興味関心理由

回答者の大学院応用データサイエンス学位プログラムに対する興味関心理由は、「ビジネス界の現状やデータの分析・活用に係る知見の獲得」51人(33.1%)が最も多く、次いで「データサイエンス関連分野・データ分析関係の就職・転職希望」42人(27.3%)、「未回答・無効回答」36人(23.4%)となっている。

⑥ 大学院応用データサイエンス学位プログラムにおいて興味関心のある科目

回答者の大学院応用データサイエンス学位プログラムにおいて興味関心のある科目は、「ビッグデータ解析・活用、データドリブン」98人(26.1%)が最も多く、「特定課題・ビジネスレポートの作成」57人(15.2%)、「インターンシップ（実際の企業データ取り扱いや、課題解決等のプロジェクトへの参加）」56人(14.9%)と続いている。

⑦ 大学院進学時の重視点

回答者の大学院進学時の重視点は、「実践力（実務力）を養うことができる」101人(24.2%)が最も多く、「専門性を深めることができる」64人(15.3%)、「修了後のキャリア形成に繋がるネットワークの構築」49人(11.7%)と続いている。

⑧修士号取得後の進路

回答者の修士号取得後の進路は、「就職（民間企業）」79人（50.0%）が最も多く、次いで「未定」「未回答・無効回答」がそれぞれ28人（17.7%）、「就職（研究職）」18人（11.4%）となっている。

(2)分析結果の要旨

回答者の学部卒業後の進路は、「就職」114人（48.3%）が最も多く半数近くを占めており、「日本の大学院に進学」は53人（22.5%）で、「未定」64人（27.1%）に次いで第3位の回答数で2割程度という結果となった。

一方で、大学院に設置される応用データサイエンス学位プログラムへの進学意向は、「ある」が95人（40.3%）と最も多く、就職を考えている人の中にも、大学院での学びに興味を持っている層がいることが窺われる。

大学院に設置される応用データサイエンス学位プログラムに対し興味を持つ理由として、「ビジネス界の現状やデータの分析・活用に係る知見の獲得」51人（33.1%）が最も多く、次いで「データサイエンス関連分野・データ分析関係の就職・転職希望」42人（27.3%）となっており、大学院での学びを就職・転職時に活かしたい、あるいは就職後にビジネスの中で活用したい、と考えていることが窺われる。

実際に受講すると仮定した場合に関心のある科目では、「ビッグデータ解析・活用、データドリブン」98人（26.1%）が最も多く、「特定課題・ビジネスレポートの作成」57人（15.2%）、「インターンシップ（実際の企業データ取り扱いや、課題解決等のプロジェクトへの参加）」56人（14.9%）と続いており、ビジネスに直結する能力を養える科目に関心が集まっていることが窺われる。

大学院に求めるポイントや魅力については、「実践力（実務力）を養うことができる」101人（24.2%）が最も多く、次いで「専門性を深めることができる」64人（15.3%）、「修了後のキャリア形成に繋がるネットワークの構築」49人（11.7%）となっており、ビジネスの現場で実際に役立つ能力を養うことと併せ、修了後のキャリアを見据えた知識・経験の取得が大学院に求められていることが窺われる。

修士号取得後の進路は、「就職（民間企業）」79人（50.0%）が最も多く半数を占めており、ビジネス界で活用することを想定して大学院で学ぼうと考えていることが窺われる。

学部卒業後の進路として「日本の大学院に進学」と回答したのは53人（22.5%）だが、大学院に設置される応用データサイエンス学位プログラムへの進学意向では「ある」が95人（40.3%）となっており、就職を想定している人の中にも大学院で応用データサイエンスを学ぶことに対し関心を持っている人がいることが窺われるため、今後、当該課程で養成する人材像や身につけさせる能力等の周知および仕事との両立を支える開講時間、webを活用した受講方法等の体制整備が望まれる。

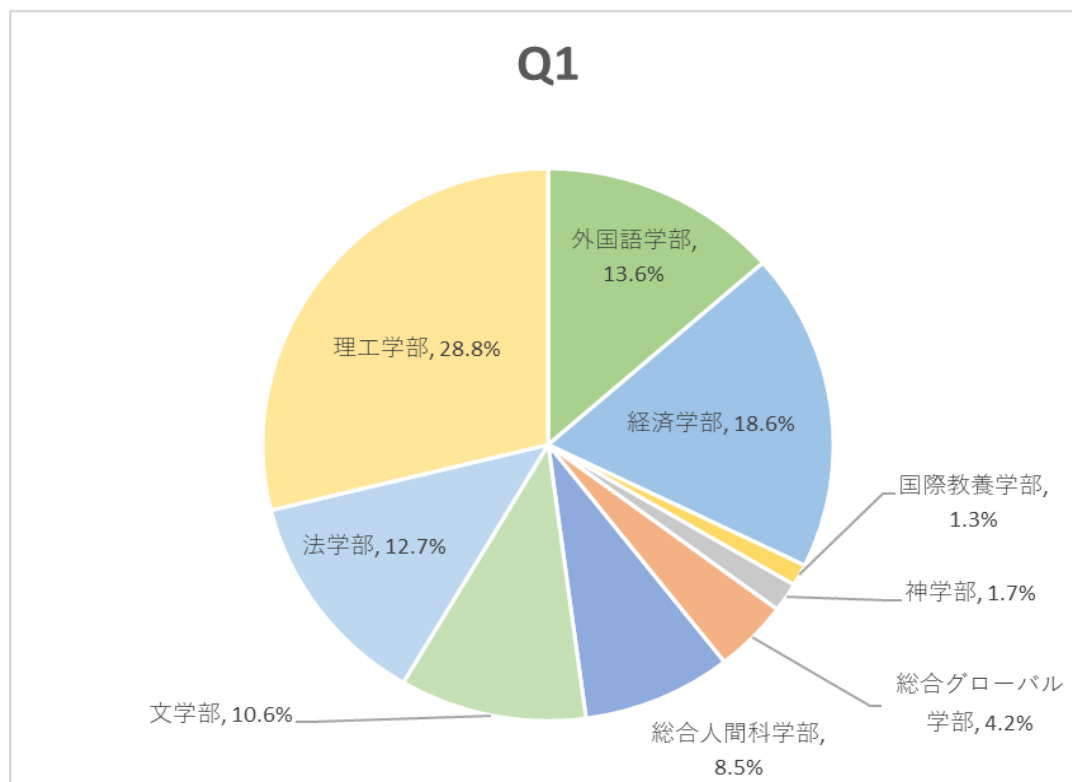
3. 全体集計結果

Q1) 所属学部

回答者の所属学部は、「理工学部」が68人(28.8%)が最も多く、「経済学部」が44人(18.6%)、「外国語学部」32人(13.6%)と続いている。

Q1) ご自身の属性についてお答えください。(所属学部)

	回答数(人)	構成比(%)
全体	236	100.0%
外国語学部	32	13.6%
経済学部	44	18.6%
国際教養学部	3	1.3%
神学部	4	1.7%
総合グローバル学部	10	4.2%
総合人間科学部	20	8.5%
文学部	25	10.6%
法学部	30	12.7%
理工学部	68	28.8%



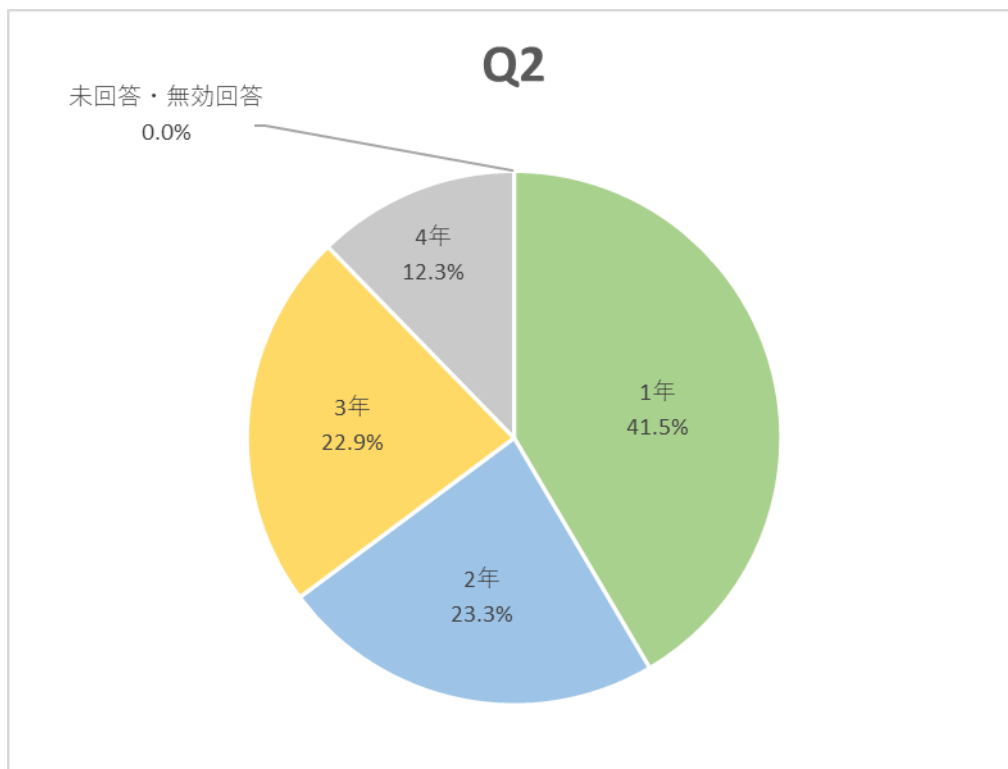
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q2) 所属学年

回答者の所属学年は、「1年」98人(41.5%)、「2年」55人(23.3%)、「3年」54人(22.9%)、「4年」29人(12.3%)となっている。

Q2) ご自身の属性についてお答えください。(学年)

	回答数(人)	構成比(%)
全体	236	100.0%
1年	98	41.5%
2年	55	23.3%
3年	54	22.9%
4年	29	12.3%
未回答・無効回答	0	0.0%



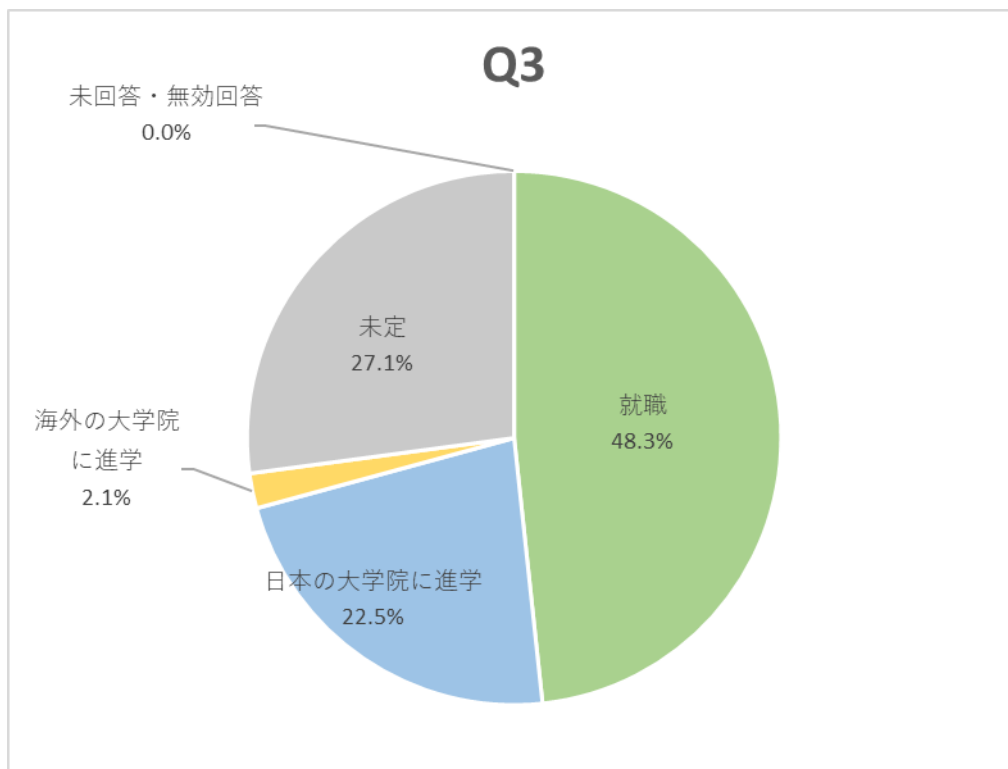
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q3) 学部卒業後の進路

回答者の学部卒業後の進路は、「就職」114人(48.3%)が最も多く半数近くとなっており、「未定」64人(27.1%)、「日本の大学院に進学」53人(22.5%)と続いている。

Q3) 学部を卒業後、現時点で進路はどのように考えていますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	236	100.0%
就職	114	48.3%
日本の大学院に進学	53	22.5%
海外の大学院に進学	5	2.1%
未定	64	27.1%
未回答・無効回答	0	0.0%



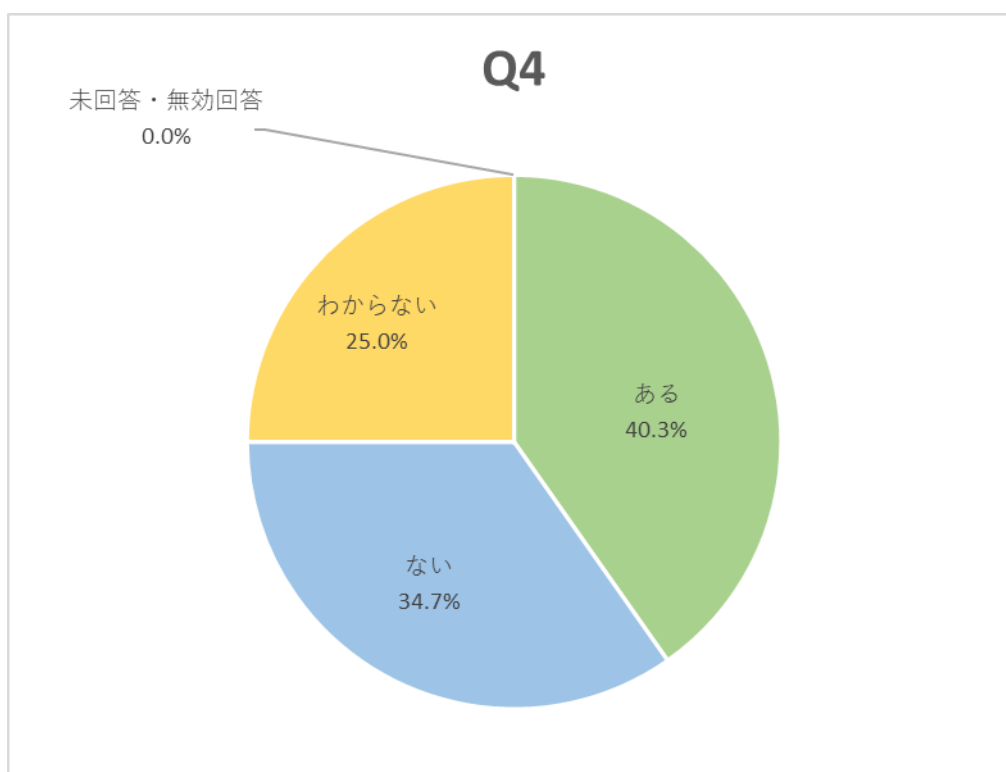
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4) 大学院応用データサイエンス学位プログラムへの進学意向

回答者の大学院応用データサイエンス学位プログラムへの進学意向は、「ある」が95人(40.3%)で最も多く、次いで「ない」82人(34.7%)、「わからない」59人(25.0%)となっている。

Q4) 大学院に「応用データサイエンス学位プログラム」が設置されたと仮定し、以下にお答えください。このような大学院への入学に興味がありますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	236	100.0%
ある	95	40.3%
ない	82	34.7%
わからない	59	25.0%
未回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

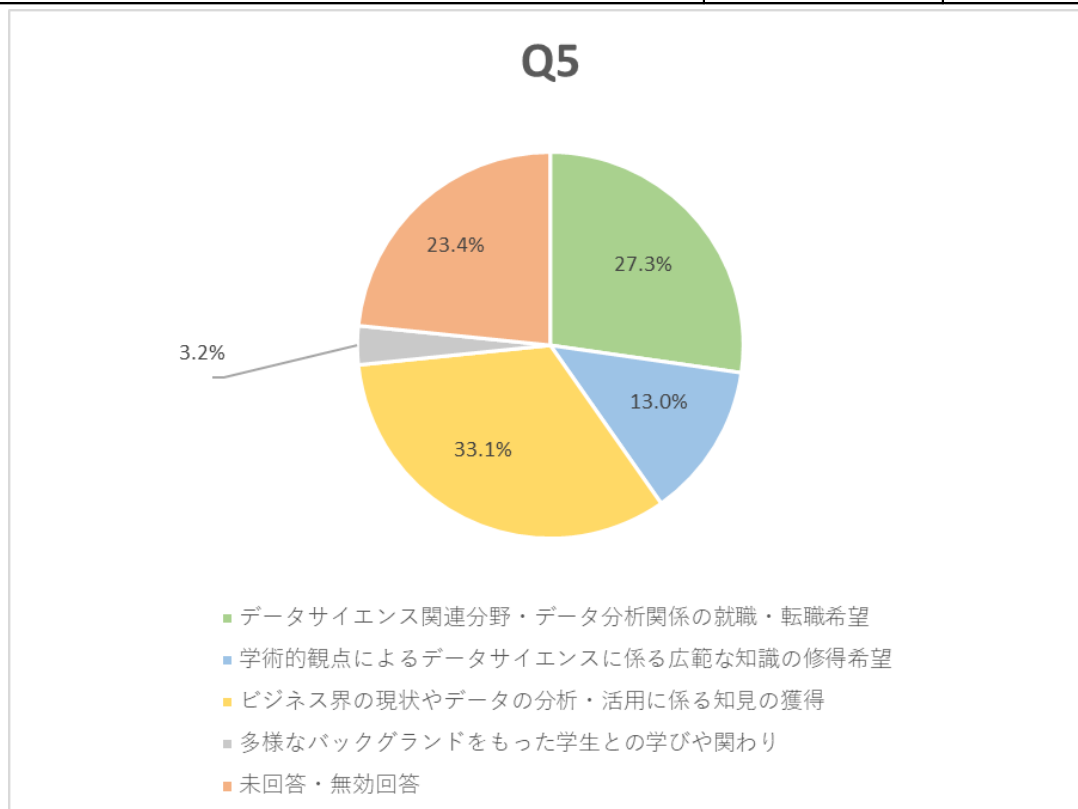
Q5) 大学院応用データサイエンス学位プログラムに対する興味関心理由

回答者の大学院応用データサイエンス学位プログラムに対する興味関心理由は、「ビジネス界の現状やデータの分析・活用に係る知見の獲得」51人(33.1%)が最も多く、次いで「データサイエンス関連分野・データ分析関係の就職・転職希望」42人(27.3%)、「未回答・無効回答」36人(23.4%)となっている。

(以降の設問は、前問で「ある」と答えた方にお伺いします。「わからない」と答えた場合も、近い選択肢によりご回答をいただければ幸いです)

Q5) 興味を持った理由をひとつ教えてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	154	100.0%
データサイエンス関連分野・データ分析関係の就職・転職希望	42	27.3%
学術的観点によるデータサイエンスに係る広範な知識の修得希望	20	13.0%
ビジネス界の現状やデータの分析・活用に係る知見の獲得	51	33.1%
多様なバックグラウンドをもった学生との学びや関わり	5	3.2%
未回答・無効回答	36	23.4%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q6) 大学院応用データサイエンス学位プログラムにおいて興味関心のある科目

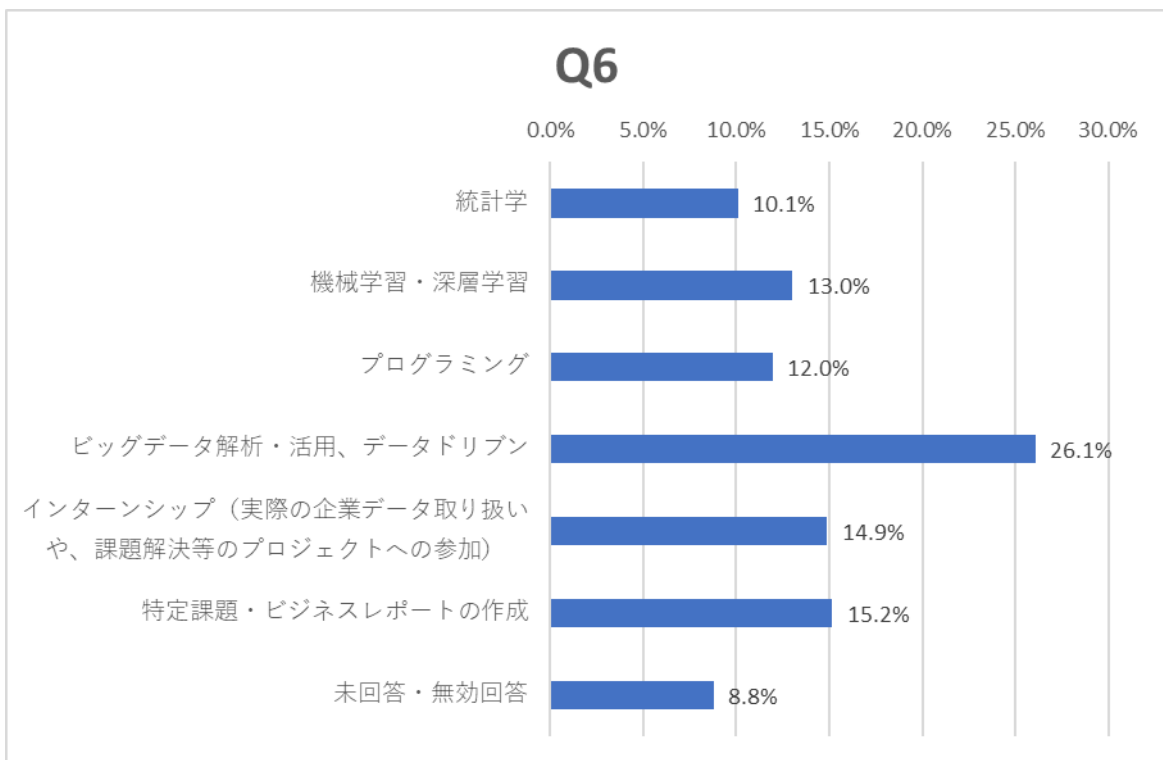
回答者の大学院応用データサイエンス学位プログラムにおいて興味関心のある科目は、「ビッグデータ解析・活用、データドリブン」98人(26.1%)が最も多く、「特定課題・ビジネスレポートの作成」57人(15.2%)、「インターンシップ(実際の企業データ取り扱いや、課題解決等のプロジェクトへの参加)」56人(14.9%)と続いている。

Q6) このような大学院に入学した場合、どのような科目に特に関心がありますか？

(複数回答可：開講予定科目一覧は下記画像参照)

科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称
必修科目	データサイエンス概論	選択科目	プログラミングA(SQL)	選択科目(続き)	政策・事業評価	連携科目	ミクロ経済学特講Ⅰ
	導入演習		プログラミングB(R)		市場と環境へのデータサイエンスアプローチ		ミクロ経済学特講Ⅱ
	演習A-1		プログラミングC(Python基礎)		データビジネス実践1(金融)		環境経済学特講Ⅰ
	演習A-2		プログラミングD(Python応用)		データビジネス実践2(通信)		環境経済学特講Ⅱ
	演習B-1		データエンジニアリング概論		データビジネス実践3(スポーツ・スポーツビジネス)		統計学特講Ⅱ
	演習B-2		データエンジニアリング実践		データビジネス実践4(製造)		数理経済分析特講Ⅰ
	データサイエンス数学		データビジネス実践5(保険)		数理経済分析特講Ⅱ		
	データの可視化と分析		インターンシップ		財務会計論特講Ⅰ		
	機械学習入門				財務会計論特講Ⅱ		
	深層学習の基礎と応用				経営財務論特講Ⅰ		
	データドリブンマネジメント			経営財務論特講Ⅱ			
	データリスクマネジメント			経営戦略論特講Ⅰ			
	情報通信産業とデータサイエンス			経営戦略論特講Ⅱ			
	予測モデル構築			マーケティング戦略論特講Ⅰ			
	ビープルアナリティクス			マーケティング戦略論特講Ⅱ			
	プロセスマイニング原論			製品開発論特講Ⅱ			
	生産性と企業価値のマネジメント			COMPUTER SCIENCE			
	AI倫理とバイアス			マシンインテリジェンス			
	ビジネス最適化のための人工知能			センシングシステム工学			
	コミュニケーションマネジメント			データサイエンス特論			
	ブランド戦略マネジメント			経営情報分析特論			
	戦略思考と意思決定			視覚メディア処理特論			
	データドリブンマーケティング			研究指導(研究指導)			

	回答数(人)	構成比(%)
全体	376	100.0%
統計学	38	10.1%
機械学習・深層学習	49	13.0%
プログラミング	45	12.0%
ビッグデータ解析・活用、データドリブン	98	26.1%
インターンシップ(実際の企業データ取り扱いや、課題解決等のプロジェクトへの参加)	56	14.9%
特定課題・ビジネスレポートの作成	57	15.2%
未回答・無効回答	33	8.8%



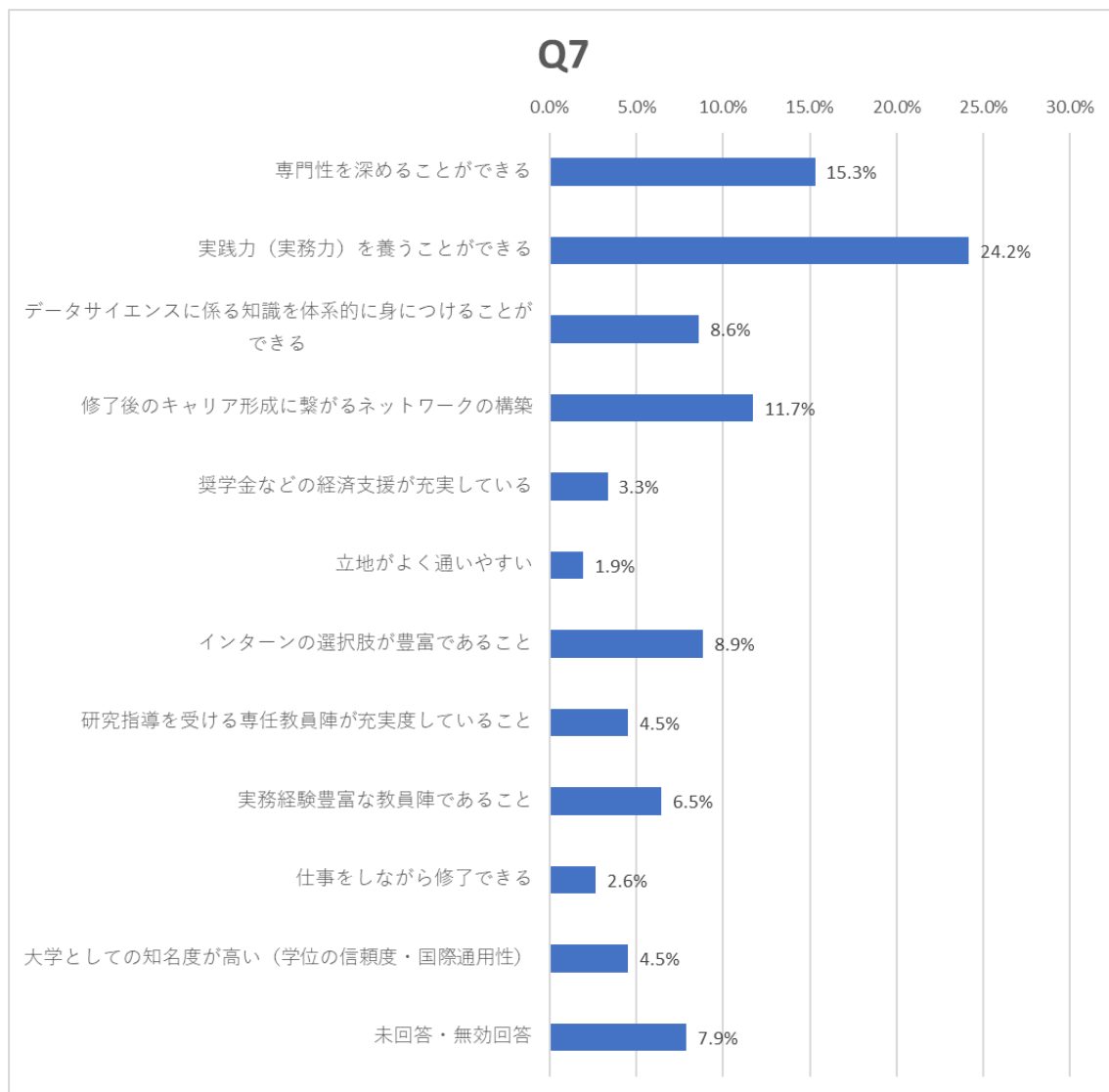
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7) 大学院進学時の重視点

回答者の大学院進学時の重視点は、「実践力（実務力）を養うことができる」101人（24.2%）が最も多く、「専門性を深めることができる」64人（15.3%）、「修了後のキャリア形成に繋がるネットワークの構築」49人（11.7%）と続いている。

Q7) このような大学院に求めるポイントや魅力を次のうちから3つ挙げてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	418	100.0%
専門性を深めることができる	64	15.3%
実践力(実務力)を養うことができる	101	24.2%
データサイエンスに係る知識を体系的に身につけることができる	36	8.6%
修了後のキャリア形成に繋がるネットワークの構築	49	11.7%
奨学金などの経済支援が充実している	14	3.3%
立地がよく通いやすい	8	1.9%
インターンの選択肢が豊富であること	37	8.9%
研究指導を受ける専任教員陣が充実度していること	19	4.5%
実務経験豊富な教員陣であること	27	6.5%
仕事をしながら修了できる	11	2.6%
大学としての知名度が高い(学位の信頼度・国際通用性)	19	4.5%
未回答・無効回答	33	7.9%



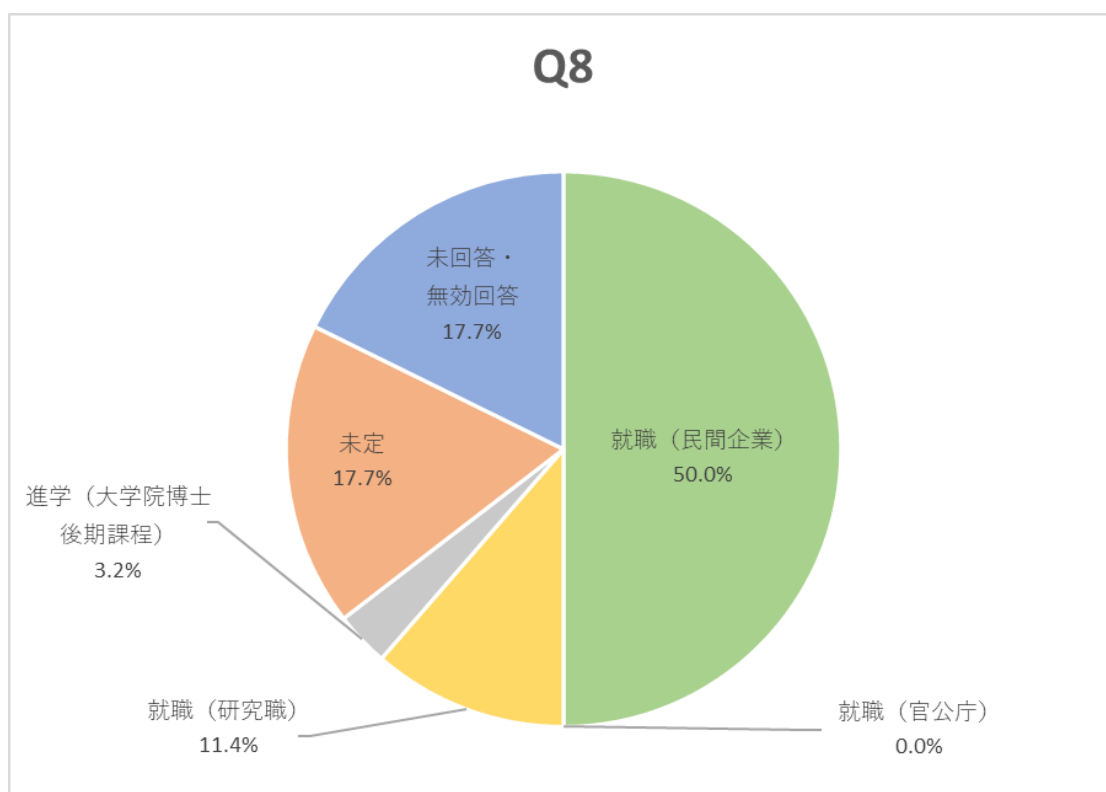
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8) 修士号取得後の進路

回答者の修士号取得後の進路は、「就職（民間企業）」79人(50.0%)が最も多く、次いで「未定」「未回答・無効回答」がそれぞれ28人(17.7%)、「就職（研究職）」18人(11.4%)となっている。

Q8) 修士号取得後はどのような進路を考えていますか。ひとつお選びください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	158	100.0%
就職(民間企業)	79	50.0%
就職(官公庁)	0	0.0%
就職(研究職)	18	11.4%
進学(大学院博士後期課程)	5	3.2%
未定	28	17.7%
未回答・無効回答	28	17.7%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9) 本構想に対する質問・提言

Q9) その他：本構想についてご質問や提言がございましたら、遠慮なくお寄せいただければ幸いです。

時代の潮流を受けて、転職などのために、新たに応用データサイエンスを学び直そうとする社会人も多いと思います。私は大学院で法学を学ぶ予定なので、残念ながらこの学位プログラムには参加できませんが、これからの時代にもっと重要となるであろう学問を学べる、プログラム設立は素晴らしいことだと思いました。
卒業してすぐかどうかはわからないが、データサイエンスを大学院水準で学ぶことは必須になるくらいの情勢になると思っています。
就職は決まっているが働きながら学んでみたい領域です。
新卒であってもデータサイエンスの能力知見は必須だと思うので、できる限りのインプットをした上で就職活動に臨みたいと考えている。教育内容について広く案内をしていただければありがたいです。
スキルとして欠かせないものとは思っており、違う分野に進みますが意識はしておきたいです。
私は就職活動を終え23年春から就職することが確定した後に大学院の存在を百瀬さんからお聞きしたため、院進を諦めていました。しかし、仕事をしながら修了できるのであれば(時間等の融通がきく)ぜひチャレンジしたいです。
せっかく上智の大学院なので、格差や国際協力、途上国の開発の場面でどのように生かしていけるのかについて、実践的な内容を含めたり、インターン先としてそうした場所が用意されていると個性が出ると思います！
線形代数や微積分などの基礎数学科目も履修できるようにしてほしい。 統計検定合格や外部のコンペティションの入賞などで、大学院進学の実験に加点してほしい。
入試日程・内容
企業に入って即戦力となる力をつけておきたい。
就職後、状況に応じて修士や博士の学位を取得することは考えている。
官公庁でも就職の口があれば候補にしたいです。
こうした大学院で培った力が就職に直結するのであれば進学を検討したいと思います。説明会に参加して具体的な内容を伺いたいです。
情報理工で得られる力をベースにして実務・実践の力を見につけておきたいです。
就職先が大学院で学ぶことを奨励しているとのことなので、可能な限り早く学びたいと思っています。
働きながら(在職しながら)大学院へ通う先輩の事例は複数きいているので、その方法でお金を貯めた後に進学を検討することはあるかもしれません。
MBAと迷っています
データサイエンスではない分野での進学を検討
選択肢8(修士号取得後の進路)は起業も考えています。
大学院で学ぶことは必要だと思うが、海外の選択肢もあると思うので、いまの時点ではどこを進学先とすればよいか、判断がつかない
ご成功をお祈りします。向いてそうな友人や後輩は多いです。

アンケート説明文 1/1

【Professional Studies企業対象】応用データサイエンス・大学院構想に関するアンケート調査のお願い

【趣旨】

上智大学では新たに大学院修士課程に「応用データサイエンス学位プログラム」を2023年に設置する計画をしています。この学位プログラムは、理工学、経済学、地球環境学研究科に所属する専任教員と、応用データサイエンス及び関連分野を専門とする実務系専任教員で構成される、分野横断型の課程です。今回のアンケートでは、学生の皆さんの卒業後の進路、特に大学院への進学意向やその専門分野、本プログラムへの関心度等について調査し、今後の構想及び志願者予測の参考にいたします。ぜひ回答にご協力いただきたく、お願いいたします。

なお、本アンケートの結果は個人を特定する意図はありません。

【現時点での応用データサイエンス学位プログラムの設置構想内容】

・カリキュラム：

課題解決に必要なデータの選択から取得、分析と検討という一連のプロセスを実践できる能力を養成するためのカリキュラムを整備し、さらにインターンシップ、特定課題の作成を通じて、データサイエンスの基礎から応用までを実践できる能力を身につける。

・学位：「修士（応用データサイエンス）」

・想定される進路：

グローバルレベルで即戦力となりうる、データ活用社会を牽引する実務家となり、様々な分野でデータアーキテクト分析関連人材（分析コンサルタント、データサイエンティスト、分析アーキテクト、プロジェクトマネージャー等）として活躍する。

・学費：150万円程度（初年度のみ入学金20万円）

・キャンパス：上智大学四谷キャンパス

・時間割：平日午後～夜間にかけて開講

アンケート調査票 1/4

* 必須

1

ご所属される企業の業種についてお答えください。

回答を入力してください

2

御社では、社員の方々が大学院で学ぶ際の支援制度はございますでしょうか？ *

- 制度を設けており、実績もある。
- 制度を設けているが、実績はない。
- 制度を設けていない。
- 制度は現在ないが、設計を検討している。

3

大学院に応用データサイエンス学位プログラムが設置されたと仮定し、以下にお答えください。このような大学院へ御社の社員を派遣する、もしくは学びたいという社員に対して支援を行うことに対して興味はありますか？ *

- ある
- ない
- わからない

アンケート調査票 2/4

(以降の設問は、前問で「ある」と答えた方にお伺いします。「わからない」とお答えの場合も、近い選択肢によりご回答をいただければ幸いです)

興味を持った理由をひとつ教えてください。

- データサイエンス関連分野・データ分析関係のスキルアップ（研修の一環）
- 学術的観点によるデータサイエンスに係る広範な知識の修得希望
- ビジネス界の現状やデータの分析・活用に係る知見の獲得
- 多様なバックグラウンドをもった学生との学びや関わり

5

このような大学院に入学した場合、どのような科目に特に関心がありますか？（複数回答可）

開講予定科目一覧は下記画像参照ください。この科目群から30単位を取得することと、修士論文に相当する特定課題・プロジェクトペーパーの提出が修了要件となります。

科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称	科目区分
必修科目	データサイエンス概論	選択科目	プログラミングA(SQL)	選択科目 (続き)	政策・事業評価	選択科目
	導入演習		プログラミングB(R)		市場と環境へのデータサイエンスアプローチ	
	演習A-1		プログラミングC(Python基礎)		データビジネス実践1(金融)	
	演習A-2		プログラミングD(Python応用)		データビジネス実践2(通信)	
	演習B-1		データエンジニアリング概論		データビジネス実践3(スポーツ・スポーツビジネス)	
	演習B-2		データエンジニアリング実践		データビジネス実践4(製造)	
	データサイエンス数学		データビジネス実践5(保険)			
	データの可視化と分析		インターンシップ			
	機械学習入門					
	深層学習の基礎と応用					
	データドリブンマネジメント					
	データリスクマネジメント					
	情報通信産業とデータサイエンス					
	予測モデル構築					
	ビープルアナリティクス					
	プロセスマイニング原論					
	生産性と企業価値のマネジメント					
	AI倫理とバイアス					
	ビジネス最適化のための人工知能					
	コミュニケーションマネジメント					
	ブランド戦略マネジメント					
	戦略思考と意思決定					
	データドリブンマーケティング					
				研究指導		

- 統計学
- 機械学習・深層学習

アンケート調査票 3/4

- プログラミング
- ビッグデータ解析・活用、データドリブン
- インターンシップ（企業データ取り扱いや、課題解決等のプロジェクトへの参加）
- 特定課題・ビジネスレポートの作成

6

このような大学院に求めるポイントや魅力を次のうちから3つ挙げてください。

- 専門性を深めることができる
- 実践力（実務力）を養うことができる
- データサイエンスに係る知識を体系的に身につけることができる
- 修了後のキャリア形成に繋がるネットワークの構築
- 奨学金などの経済支援が充実している
- 立地がよく通いやすい
- インターンの選択肢が豊富であること
- 研究指導を受ける専任教員陣が充実度していること
- 実務経験豊富な教員陣であること
- 仕事をしながら修了できる
- 大学としての知名度が高い（学位の信頼度・国際通用性）

7

本学が本プログラムを開設した場合、御社社員が入学する可能性はどの程度ありますでしょうか？

- 毎年複数名が見込まれる。
- 毎年1名程度が見込まれる。

アンケート調査票 4/4

- 2～3年に1名程度が見込まれる。
- わからない

8

その他：本お伺いに関連した内容で、ご質問やご提言がございましたら、遠慮なくお寄せいただければ幸いです。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms |

このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。

| [利用規約](#)

アンケート説明文 1/1

応用データサイエンス・大学院設置構想 (2023年～)に関するアンケート調査の お願い

【趣旨】

上智大学では新たに大学院修士課程に「応用データサイエンス学位プログラム」を2023年4月に設置する計画をしています。この学位プログラムは、理工学、経済学、地球環境学研究科に所属する専任教員と、応用データサイエンス及び関連分野を専門とする実務系専任教員で構成される、分野横断型の課程です。今回のアンケートでは、学生の皆さんの卒業後の進路、特に大学院への進学意向やその専門分野、本プログラムへの関心度等について調査し、今後の構想及び志願者予測の参考にいたします。ぜひ回答にご協力いただきたく、お願いいたします。

なお、本アンケートの結果は個人を特定する意図はありません。仕様上特定もできません。

【現時点での応用データサイエンス学位プログラムの設置構想内容】

・カリキュラム：

課題解決に必要なデータの選択から取得、分析と検討という一連のプロセスを実践できる能力を養成するためのカリキュラムを整備し、さらにインターンシップ、特定課題の作成を通じて、データサイエンスの基礎から応用までを実践できる能力を身につける。

・学位：「修士（応用データサイエンス）」

・想定される進路：

グローバルレベルで即戦力となりうる、データ活用社会を牽引する実務家となり、様々な分野でデータアーキテクト分析関連人材（分析コンサルタント、データサイエンティスト、分析アーキテクト、プロジェクトマネージャー等）として活躍する。

・学費：150万円

・キャンパス：上智大学四谷キャンパス

...

アンケート調査票 1/4

* 必須

1

ご自身の属性についてお答えください。(所属学部学科) *

回答を入力してください

2

ご自身の属性についてお答えください。(学年) *

回答を入力してください

3

学部を卒業後、現時点で進路はどのように考えていますか。 *

- 就職
- 日本の大学院に進学
- 海外の大学院に進学
- 未定

4

大学院に「応用データサイエンス学位プログラム」が設置されたと仮定し、以下にお答えください。このような大学院への入学に興味がありますか。 *

- ある
- ない
- わからない

アンケート調査票 2/4

5

(以降の設問は、前問で「ある」と答えた方にお伺いします。「わからない」と答えた場合も、近い選択肢によりご回答をいただければ幸いです)
興味を持った理由をひとつ教えてください。

- データサイエンス関連分野・データ分析関係の就職・転職希望
- 学術的観点によるデータサイエンスに係る広範な知識の修得希望
- ビジネス界の現状やデータの分析・活用に係る知見の獲得
- 多様なバックグラウンドをもった学生との学びや関わり

6

このような大学院に入学した場合、どのような科目に特に関心がありますか？(複数回答可；開講予定科目一覧は下記画像参照)

科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称
必修 科目	データサイエンス概論	選択 科目	プログラミングA (SQL)	選択 科目	政策・事業評価	選択 科目	【クロ経済学特講Ⅰ】
	導入演習		プログラミングB (R)		市場と環境へのデータサイエンスアプローチ		【クロ経済学特講Ⅱ】
	演習A-1		プログラミングC (Python基礎)		データビジネス実践1 (金融)		環境経済学特講Ⅰ
	演習A-2		プログラミングD (Python応用)		データビジネス実践2 (通信)		環境経済学特講Ⅱ
	演習B-1		データエンジニアリング概論		データビジネス実践3 (スポーツ・スポーツビジネス)		統計学特講Ⅱ
	演習B-2		データエンジニアリング実践		データビジネス実践4 (製造)		数理経済分析特講Ⅰ
	データサイエンス数学		データサイエンス実践5 (保険)	データビジネス実践5 (保険)	数理経済分析特講Ⅱ		
	データの可視化と分析		インターンシップ		財務会計論特講Ⅰ		
	機械学習入門				財務会計論特講Ⅱ		
	深層学習の基礎と応用				経営財務論特講Ⅰ		
	データドリブンマネジメント				経営財務論特講Ⅱ		
	データリスクマネジメント				経営戦略論特講Ⅰ		
	情報通信産業とデータサイエンス				経営戦略論特講Ⅱ		
	予測モデル構築				マーケティング戦略論特講Ⅰ		
	ゼータアナリティクス				マーケティング戦略論特講Ⅱ		
	プロセスマイニング理論				製品開発論特講Ⅱ		
	生産性と企業価値のマネジメント			COMPUTER SCIENCE			
	AI論理とバイアス			マシンインテリジェンス			
	ビジネス最適化のための人工知能			センシングシステム工学			
	コミュニケーションマネジメント			データサイエンス特論			
	ブランド戦略マネジメント			経営情報分析特論			
	戦略思考と意思決定			視覚メディア処理特論			
	データドリブンマーケティング			研究指導 (研究指導)			

- 統計学
- 機械学習・深層学習
- プログラミング
- ビッグデータ解析・活用、データドリブン
- インターンシップ (実際の企業データ取り扱いや、課題解決等のプロジェクトへの参加)
- 特定課題・ビジネスレポートの作成

アンケート調査票 3/4

7

このような大学院に求めるポイントや魅力を次のうちから3つ挙げてください。

- 専門性を深めることができる
- 実践力（実務力）を養うことができる
- データサイエンスに係る知識を体系的に身につけることができる
- 修了後のキャリア形成に繋がるネットワークの構築
- 奨学金などの経済支援が充実している
- 立地がよく通いやすい
- インターンの選択肢が豊富であること
- 研究指導を受ける専任教員陣が充実していること

- 実務経験豊富な教員陣であること
- 仕事をしながら修了できる
- 大学としての知名度が高い（学位の信頼度・国際通用性）

8

修士号取得後はどのような進路を考えていますか。ひとつお選びください。

- 就職（民間企業）
- 就職（官公庁）
- 就職（研究職）
- 進学（大学院博士後期課程）
- 未定

アンケート調査票 4/4

9

その他：本構想についてご質問や提言がございましたら、遠慮なくお寄せいただければ幸いです。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms |

このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。

[利用規約](#)

資料 6

SOPHIA U

2022年度春学期全学共通科目「データサイエンス概論」 授業アンケート集計結果

基盤教育センターデータサイエンス領域

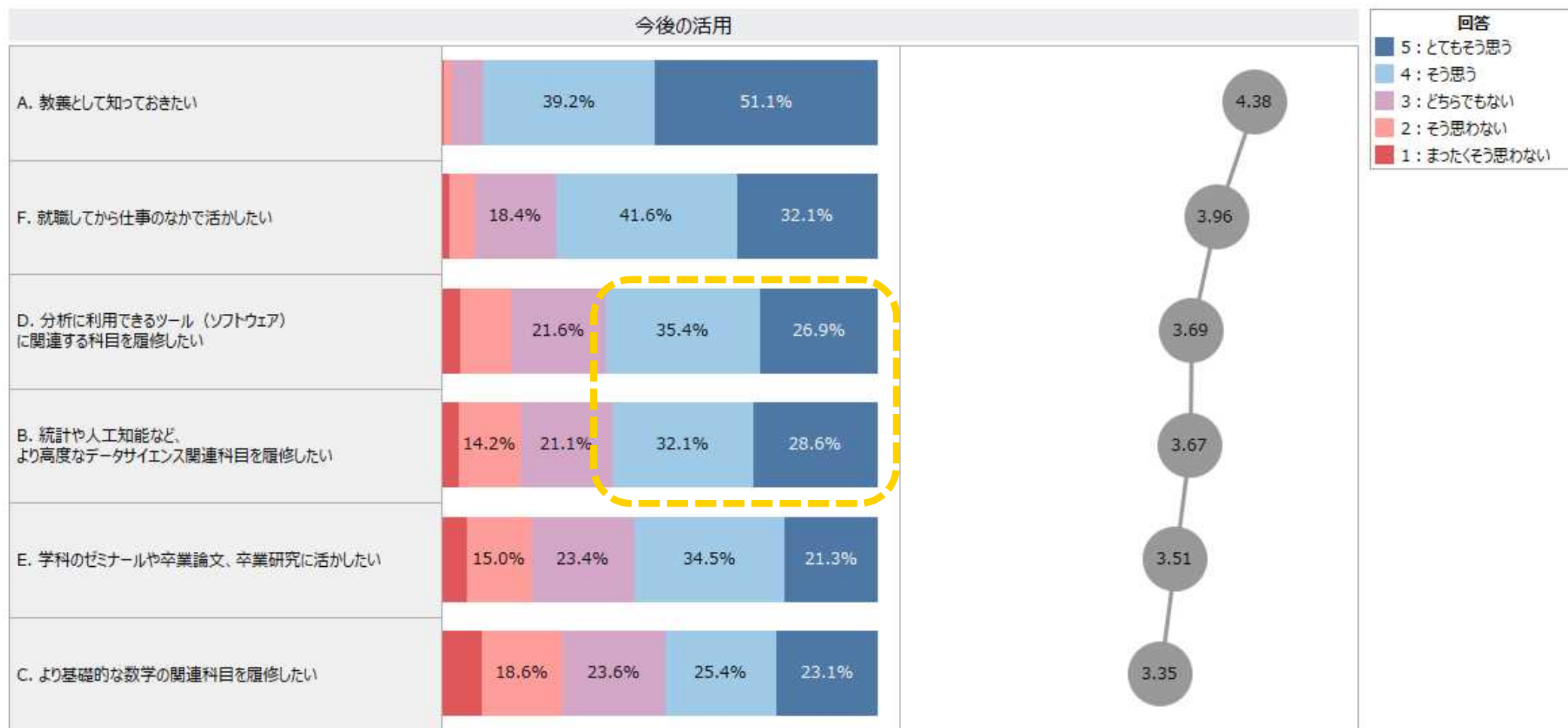


FOR OTHERS, WITH OTHERS

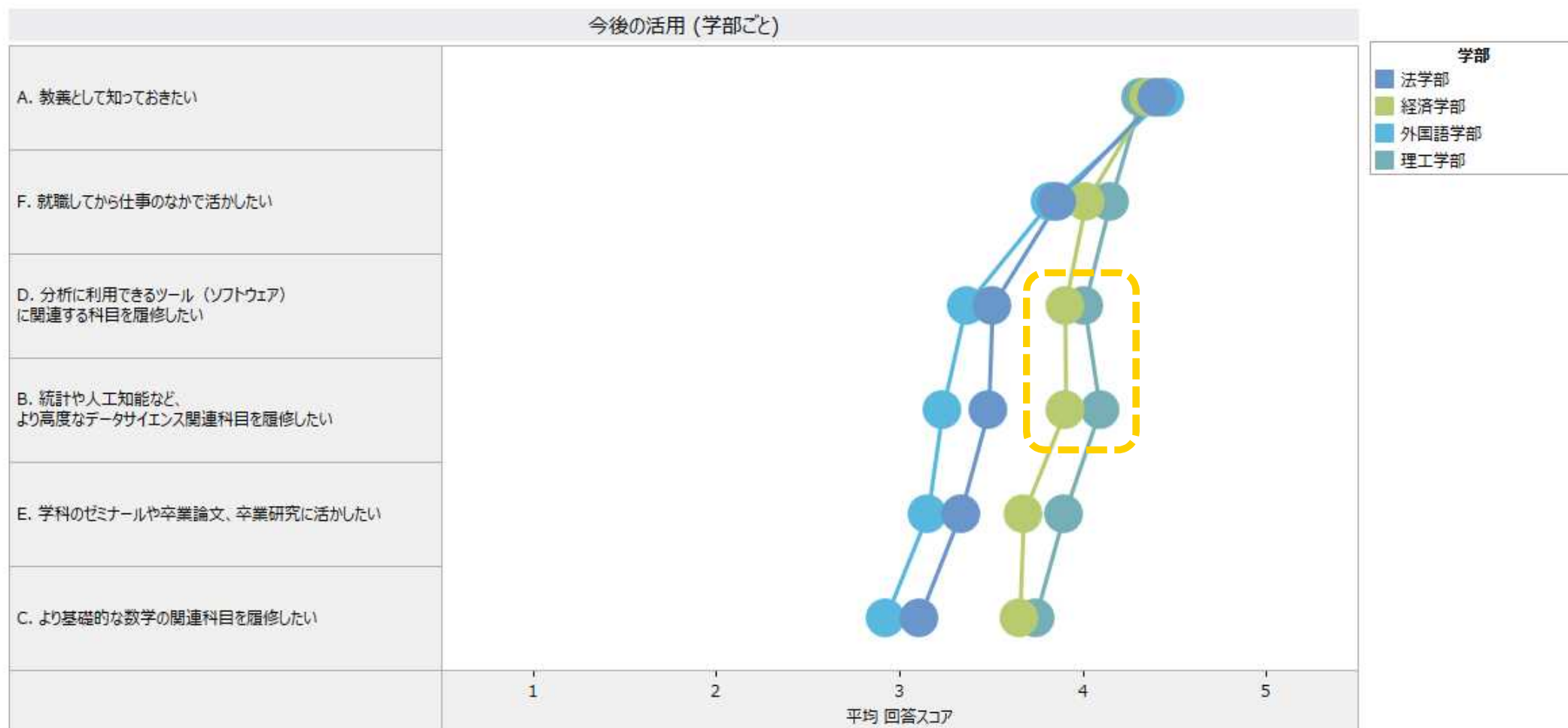
調査概要

- 対象者
 - 1年次必修の全学共通科目「データサイエンス概論」の2022年度春学期の全受講生
= 法学部、経済学部、外国語学部英語／ドイツ語／フランス語学科、理工学部全1年次生
- 対象者数
 - 1,356名
- 調査期間
 - 2022/7/18（月）～22（金）の第14回講義（オンデマンド）時
- 調査方法
 - Moodle上で回収
- 回答数／回答率（※2022/8/1時点）
 - 994件／73.3%

6割の学生は上位科目に興味を示している



とくに経済学部・理工学部で上位科目への興味・関心が高い



SOPHIA PROFESSIONAL STUDIES

上智大学社会人プログラム 2022年度開講スケジュール

■ 教養講座(平日) 全6コマ 朝 8:30-10:00 昼 15:30-17:00 夜 18:30-20:00 全ての講義をオンラインで実施します

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	
1111	吉川 まみ	人間学:環境問題から考える“生きる意味”	春	金	夜	4/22	5/13	5/27	6/10	6/24	7/8	
1121	長尾 直茂	伝統文化から見た日本		木	夜	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	
1122	飯島 真里子	グローバル・ヒストリーズ:世界のつながりを紐解く歴史観		金	夜	4/22	5/13	5/27	6/10	6/24	7/15	
1132	まくどなるど あん	21世紀における「グローカリズム」と持続可能性: 日本列島におけるレジリエンス及びダイナミックな順応的 管理の可能性を探る		木	夜	6/9	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	
1141	西口 尚宏	SDGsとイノベーション ~ SDGsをイノベーションを興しながら達成する日本企業向けの実践方法~		月	夜	4/25	5/9	5/23	6/6	6/20	7/4	
1142	横山 恭子	病とともに「生きる」を支える		水	夜	4/20	5/11	5/25	6/8	6/22	7/6	
1143	久田 満	プロカウンセラーと学ぶ傾聴力~部下のため、部署のため、そして会社全体のために		金	夜	4/22	5/13	5/27	6/10	6/24	7/15	
1152	齊藤 玉緒	現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論		木	夜	4/28	5/12	5/26	6/9	6/23	7/7	
1162	松本 美奈	質問力を磨く ~ 脳・思考停止~		木	昼	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	7/21	
1163	音 好宏	グローバルコミュニケーション・リテラシー~グローバルメディアの変容と相互理解		水	朝	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13	7/20	
1211	永井 敦子/山崎 瑛莉	アフリカの智に学ぶ ~ サハラ以南アフリカの慣習や文化から~		秋	月	夜	10/17	10/24	11/7	11/21	12/5	12/19
1213	大橋 容一郎	SDGsとグローバル化の哲学			水	夜	9/28	10/5	10/12	10/19	11/9	11/16
1214	寺田 俊郎	仕事に生かす哲学的対話~深く豊かな思考のために	水		夜	12/7	12/14	12/21	1/11	1/18	1/25	
1221	川村 信三	世界最小国バチカンから世界最大級の影響力を読み解く~教皇庁の歴史と外交から~	金		夜	10/7	10/21	11/11	11/25	12/9	12/23	
1231	ユウ・アンジェラ	越境する日本文学と美術	水		昼	9/28	10/12	10/26	11/9	11/30	12/14	
1232	矢澤 達宏	アフリカのいまを知る ~ステレオタイプを越えて~	金		夜	9/30	10/14	10/28	11/18	12/2	12/16	
1233	国枝 智樹	グローバルリスクと戦略的コミュニケーション	火		夜	9/27	10/4	10/11	10/18	10/25	11/8	
1234	都留 康子	海と安全保障	火		夜	10/11	10/18	10/25	11/8	11/22	12/6	
1241	三浦 まり	教養としてのジェンダー:国際潮流から考える「ビジネスとジェンダー」	月		夜	10/3	10/17	10/31	11/14	11/28	12/12	
1242	久田 満	偏見と差別の心理学~共生社会の実現を目指して	金		夜	10/7	10/21	11/11	11/25	12/9	12/23	
1243	北村 喜宣	サステナビリティ社会における企業の環境戦略 ~法、政策、最前線の現場から	月		夜	12/5	12/19	1/16	1/30	2/13	2/27	
1251	大槻 東巳	先進技術と基礎科学 ~意思決定の依拠を考察する~	金		夜	9/30	10/14	10/28	11/11	11/25	12/9	
1252	矢入 郁子	デジタル技術が拓くデータ駆動社会	月	夜	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12	12/19		
1253	神澤 信行/藤原 誠	植物から社会は何を学ぶことができるのか:食糧と環境の科学概論	金	夜	9/30	10/14	10/28	11/11	11/25	12/9		

■ 教養講座(土曜) 全6コマ A ①10:00-11:30 ②12:30-14:00 ③14:15-15:45 B ①10:30-12:00 ②13:00-14:30 ③14:45-16:15

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
1131	私市 正年	イスラームをどう理解するか? —原理・原則と多様性を考える	春	土	A	4/23①	4/23②	5/7①	5/7②	5/21①	5/21②
1151	矢野 誠	文理融合のエコシステム		土	A	5/21①	5/21②	5/21③	6/4①	6/4②	6/4③
1153	安納 住子	ビッグデータ活用:基礎と応用		土	B	4/16①	4/16②	4/16③	4/23①	4/23②	4/23③
1161	森下 哲朗	交渉学入門:より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル	秋	土	A	4/16①	4/16②	4/16③	4/23①	4/23②	4/23③
1212	鈴木 守	身体知の実践 ~ソマティックな人間観に依拠して~		土	A	10/29①	10/29②	10/29③	11/5①	11/5②	11/5③
1222	山岡 三治	グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服 ~ローマ・カトリック教会の世界伝道の歴史に学ぶ~		土	A	10/8①	10/8②	10/8③	10/29①	10/29②	10/29③
1223	寺田 勇文	日本で暮らす東南アジアの人々:共生の道筋を考える		土	A	10/8①	10/8②	10/8③	10/22①	10/22②	10/22③
1244	出口 真紀子	マジョリティ側からダイバーシティを考える:特権と立場の心理学	土	A	11/5①	11/5②	11/5③	11/19①	11/19②	11/19③	

■ スペシャリスト養成講座 全8コマ (平日) 夜 18:30-20:00 (土曜) A ①10:00-11:30 ②12:30-14:00 ③14:15-15:45

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
2101	森下 哲朗	人を動かす究極の交渉・コミュニケーション術:“納得”の導き方	春	土	A	6/4①	6/4②	6/4③	6/11①	6/11②	6/11③	6/18①	6/18②
2201	西澤 茂	国際会計 ~IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析~	秋	木	夜	9/29	10/6	10/13	10/20	10/27	11/10	11/17	11/24
2202	織 朱實	コロナ以降の環境をめぐる企業のパラダイムシフト: コロナ以降企業は変革に向けてどのように対応していくのか		土	A	10/8①	10/8②	10/15①	10/15②	10/22①	10/22②	10/29①	10/29②
2203	百瀬 公朗	データサイエンスの実践 -データを消費するのではなく生産化する-		月	夜	10/3	10/17	10/31	11/14	11/28	12/12	1/16	1/30
2204	私市 正年	歴史の理論と文明論 -いまという「時代」と「社会」をいかに考えるか?~		木	夜	10/20	10/27	11/10	11/17	11/24	12/1	12/8	12/15

※2022年4月時点での開講スケジュールとなります。今後、やむをえず変更になる場合があります。

プロフェッショナル・スタディーズ Webサイト

<https://www.sophia-professionalstudies.jp>



【資料 8】 データサイエンティストの確保状況

1 (書類等の題名)

NHK NEWS WEB 「データを“宝の山”に 企業が今、なんとしても欲しい人材」

2 (出典)

NHK NEWS WEB サイト

3 (引用範囲)

以下サイト内ニュース記事の「大手でも全然足りない」という項目から、記事文書および添付画像を引用した。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210909/k10013251211000.html>

(令和 4 年 9 月 1 日閲覧)

4 (その他の説明)

データサイエンティスト人材確保を予定していた企業 82 社への調査で、「どちらかといえば確保できなかった」「確保できなかった」企業が 58%であったことが示された報道を紹介した。

【資料 9】 企業におけるデータサイエンス分野人材の今後の動向について

メーカー系企業を中心に、DX・AI・データ分析人材の需要は高まっており、今後もその傾向は続くことが予想されるものの、転職マーケット上当該分野に強い人材が多くない状況のため、人材獲得に苦慮している企業が多いことが想像される。

*株式会社キカガク運営サイト「キカガクの技術ブログ」内の 2022 年 3 月 3 日付記事「【DX/AI 人材の転職の今】最新マーケット動向と未経験からの挑戦について」より抜粋。企業名・個人名は伏せた。

ー DX・AI・データ分析人材の需要はいかがですか？

A. 定性的ですが、DX・AI・データ分析人材の求人はDX推進にかなり力を入れているメーカー系企業が非常に多いです。また、メーカー系企業がIT系企業とかコンサル系企業に依頼するので、そういったところの採用熱度も非常に高くなっております。求人数をみると2018年度と現在で比較すると4倍近くまで増えています。

ー今後もそのニーズは続きそうですか？

A. 今後も増えていくのではないかと考えています。日本のメーカー系企業のいわゆるDXがはじまったのもここ1~2年ぐらいの話だと思っています。つまり、推進を今始めているタイミングなので、そういった意味では向こう5年ぐらいまではずっと伸び続けると考えております。

ー上記人材の最近の動向はどうですか？

A. 一昨年よりも去年、去年よりも今年、半年前よりも今という形で、DXの文脈の中で分析やAIの知識等がある方の需要はどんどん増えています。ただ、企業様側との採用要件の定義の際にも、「やっぱり欲しいです。ただマーケットにいないのはわかっています。」ということをよく伺います。

やはり採用熱度は高いのですが、一方でまだ転職マーケットに、DXやデータ分析、AIに強い方というのがそこまで多くいらっしゃらないので、企業様としては採用したいけれども人材が獲得できてないという状況だと思います。

出典：キカガクの技術ブログ「【DX/AI 人材の転職の今】最新マーケット動向と未経験からの挑戦について」
<https://blog.kikagaku.co.jp/doda-interview>

(令和4年9月1日閲覧)

【資料 10】 データサイエンス系学部の動向

*AERAdot.サイトより抜粋

■企業が優秀な社員を大学院に派遣

滋賀大では 2019 年に大学院にデータサイエンス研究科を設けた。ここでは社会人派遣を受け入れており、情報通信系の大手企業などから若く優秀な社員が送り込まれているという。そうした社会人との交流が学生の就職につながった例もあったという。

「連携している企業から派遣された大学院生が学生に声をかけてその企業に就職し、社内で独立した部署をつくったという事例もありました。中途採用はいま、取り合いで採用できないので、本学の卒業生を採用しよう、と調べてくださる企業があるのではないかと思います」（滋賀大データサイエンス学部長の竹村彰通教授）

出典：2021 年 11 月 19 日付「卒業後は有名企業から引く手あまた？ 全国の大学で「データサイエンス学部」が増加している理由」（AERAdot.サイト）

<https://dot.asahi.com/dot/2021111700024.html?page=1>

（令和 4 年 9 月 1 日閲覧）

【資料 11】 大学における指導者不足の問題

*Sankei Biz サイトより抜粋

ただこうしたニーズに対して、「学びの場はまだ圧倒的に不足している。指導者不足が背景にあり、多くの大学が質の良い教員を集めるのに苦心している」（横浜市立大データサイエンス学部長の汪金芳教授）のも実情。指導者の早期育成が大きな課題となる。

出典：2021年5月23日付「大学に広がるデータサイエンス教育、IT人材需要で学部新設 指導者不足が課題」（Sankei Biz サイト）

<https://www.sankeibiz.jp/business/news/210523/bsj2105232106002-n2.htm>

（令和4年9月1日閲覧）

【資料 12】 企業におけるデータサイエンス分野人材の状況について

*座談会「AI・データサイエンスの未来～Part2 求められる人材とは？」より抜粋。企業名は伏せた。）

一どのような人が即戦力となるのでしょうか。

- A. (企業担当者 B) データサイエンスに関してのベースの知識、技術はもちろん必要です。それに加え、「ストーリーテリング」はまさにそうで、データの意味をきちんと捉えて技術的課題を整理し、それを愚直に複数案、提案できる、そうした課題解決力があることです。学生がビジネスを知らないのは当たり前ですが、データサイエンスを活用するならその企業で何ができるか、出口のイメージを最初から持っていてほしいです。そのためにも大学では課題発見からの PBL などの積み重ねが大事ではないかと思います。
- A. (企業担当者 A) データサイエンスを社会でどう使うのか、実践力を養うことが重要なのは、まさにその通りだと思います。それに加え、もう少し強化されるといいと思うのは、データ解析やプログラミングなど、実際に手を動かしてすぐに使えるスキルです。海外では大学での勉強に加え、インターンなどで入社前に実務経験を積んでくることが多いですが、日本では就職後にしっかりとトレーニングすることがまず基本となっているところに違いがあると感じます。もう一つは、英語を含めたコミュニケーションのスキルです。当社はグローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業ということもあり、いろいろな方との連携を通して課題認識とデータ活用を進めていくことが重要です。

出典：Campus AERA「大学×企業でニッポンの未来を考える」

<https://dot.asahi.com/ad/21092101/>

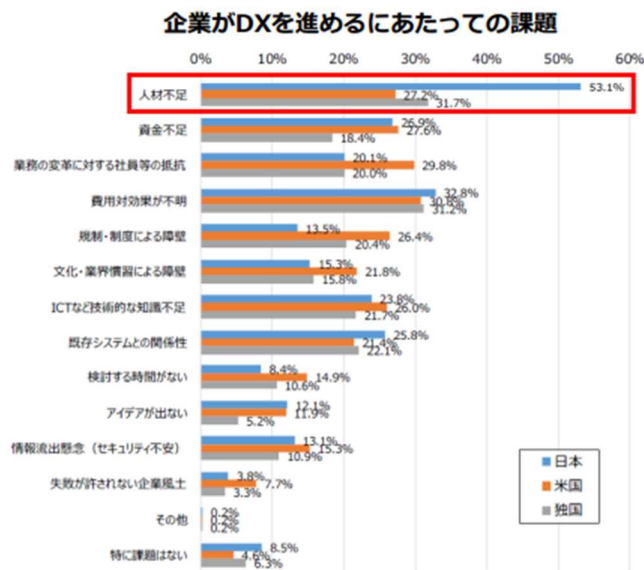
(令和 4 年 9 月 1 日閲覧)

【資料 13】 DX 人材育成の課題

*内閣官房教育未来創造会議提言「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」（令和4年5月10日）の「参考データ集」より抜粋
 （参考データ集 p.13）

企業はDXを進めるにあたり、人材不足に課題を感じている

○アメリカやドイツと比較して、日本は企業のDXの取組を進めるにあたっての課題として、「人材不足」を挙げている企業が圧倒的に多い。



（出所）総務省委託調査「デジタル・トランスフォーメーションによる経済へのインパクトに関する調査研究報告書（株式会社情報通信総合研究所）」（2021年3月）

出典：内閣官房公式サイト

<https://www.cas.go.jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/sankou.pdf>

（令和4年9月1日閲覧）

【資料 14】 DX 人材育成に関する国の取り組み

*内閣官房 教育未来創造会議 HP「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）本文」より抜粋（提言本文 pp.16-18）

～STEAM 教育の強化・文理横断による総合知創出～

・ 全学的なデジタルリテラシーの向上に向けた基礎素養としてのデータサイエンス等の履修促進や既存の理工系大学等における現職・実務家教員向けのリススキル・プログラムの開設を支援する。 その際、オンラインを積極的に活用して優れた授業を活用する単位互換や研修を促進する。

・ こうした総合知を育成するための入試科目の見直し、入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学び、全学的なデータサイエンス教育等について、「教学マネジメント指針」の見直しや、設置認可審査や修学支援新制度の機関要件の審査での反映、積極的に取り組む大学の好事例の収集・展開、基盤的経費の配分におけるメリハリ付けによるインセンティブの付与に取り組むなど、学生の学びの充実に向けた実効性ある方策を講ずる。

～大学院教育の強化～

・ 専門分野の深掘りや新規分野の開拓に加えた政策立案、産業育成、企業経営のできる博士人材の育成など、修了後の多様なキャリアパスを念頭にした教育プログラムを充実する。

・ 研究力強化を図る観点から、世界トップレベルの研究型大学を志向する大学について、学部から大学院への学内資源（定員等）の重点化を図り、大学院を強化・充実する。

出典：内閣官房公式サイト

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/ikkatsu_dl.pdf

（令和 4 年 9 月 1 日閲覧）

【資料 15】 IT 分野の人材不足見込み 1

* 経済産業省委託事業「平成 30 年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（IT 人材等育成支援のための調査分析事業）－ IT 人材需給に関する調査 －」調査報告書（2019 年 3 月）より抜粋
(p.20)

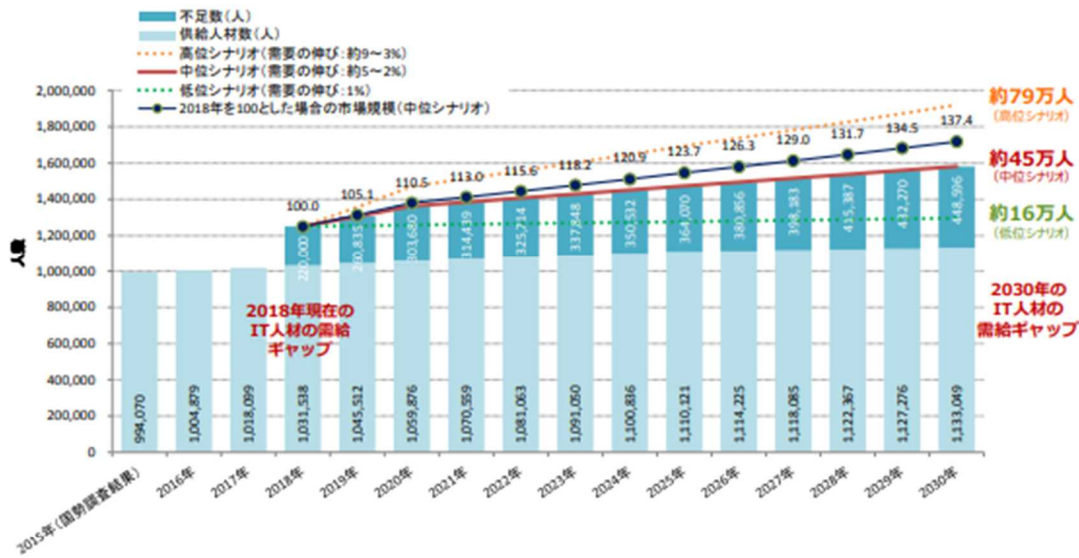


図 3-11 IT 人材需給に関する主な試算結果①②③の対比

(生産性上昇率 0.7%、IT 需要の伸び「低位」「中位」「高位」)

(出所) 2015 年は総務省「平成 27 年国勢調査」によるもの、
2016 年以降は試算結果をもとにみずほ情報総研作成

出典：経済産業省委託事業「平成 30 年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（IT 人材等育成支援のための調査分析事業）－ IT 人材需給に関する調査 －」調査報告書（2019 年 3 月）
みずほ情報総研株式会社

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf

(令和 4 年 9 月 1 日閲覧)

【資料 16】 IT 分野の人材不足見込み 2

*総務省公式ウェブサイト 令和 3 年版「情報通信白書」より抜粋

(p.25)

～4. 我が国がデジタル化で後れを取った理由～

③ICT 人材の不足・偏在

デジタル化の推進には、ICT 人材が不可欠であるが、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の調査結果（2019 年度）によると、IT 人材の量について、「大幅に不足している」又は「やや不足している」という回答の合計は、89.0%にも達している。また、時代によって求められる ICT 人材が異なり、現在では、情報セキュリティなどの高度な ICT スキルやアジャイル開発など新しい分野に対応できる人材が強く求められているが、IPA の調査では、IT 人材の質についても、「大幅に不足している」又は「やや不足している」という回答の合計は、90.5%にも達している。このように、我が国の ICT 人材は、量も質も十分ではないとユーザー企業に認識されている。

また、その人材についても、令和元年版情報通信白書で述べたとおり、我が国では、外部ベンダーへの依存度が高く、ICT 企業以外のユーザー企業に多く配置されており、ユーザー企業では、組織内で ICT 人材の育成・確保ができていない。

出典：総務省公式サイト 令和 3 年度版「情報通信白書」

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/pdf/01honpen.pdf>

(令和 4 年 9 月 1 日閲覧)

【資料 17】 2050 年の労働需要の推計

*経済産業省「未来人材ビジョン」（令和4年5月）より抜粋
(p.22)

**目指すべき高成長シナリオでは、2050年において、
特徴のはっきりした労働需要の変化が確認された。**

「職種」・・・ 事務従事者 42% 減少

販売従事者 26% 減少

情報処理・通信技術者 20% 増加

開発・製造技術者 11% 増加

「産業」・・・ 卸売・小売業 27% 減少

製造業 1% 減少

出典：経済産業省「未来人材ビジョン」（令和4年5月）

https://www.meti.go.jp/shingikai/economy/mirai_jinzai/pdf/20220531_1.pdf

(令和4年9月1日閲覧)

【資料 18】 学ぶ意欲がある人への支援

*内閣官房 教育未来創造会議 HP「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）本文」より抜粋

（提言本文 pp.30-31）

～（2）学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境整備～

デジタル化の急速な進展等を目の当たりにし、社外も含めた教育機会やリソースの活用による学び直しを希望する社会人は一定程度存在する。他方で、そのための時間や費用が確保できないことに加え、自己啓発の結果が社内で評価されなかったり、休暇取得・定時退社・早退・短時間勤務の選択等が会社の都合でできなかったりするなど、職場を離れて学ぶことへの抵抗感や不安感などが、学び直しを阻害する要因となっている。

特にデジタル等成長分野について学ぶ意欲がある人への支援を充実するとともに、意欲のある人が学び直しに躊躇しない環境を整備する。

< 具体的取組 >

・在学中は授業料を徴収せず卒業（修了）後の所得に連動して返還・納付を可能とする新たな制度を、高等教育の修学支援新制度の対象とはなっていない大学院段階において導入する。

出典：内閣官房公式サイト

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/ikkatsu_dl.pdf

（令和 4 年 9 月 1 日閲覧）

【資料 19】 学ぶ直しに係る企業の事例紹介

(引用開始)

日本製鉄はリスクリング（学び直し）を進める社員に対し、最長 3 年間の休職を認める制度を始めた。博士号の取得などを視野に入れた制度で、社員は大学院などに通いやすくなる。世界に比べて遅れていた日本企業の学び直しの選択肢が多様になってきた。

国内製造業の代表格である日鉄が長期の休職制度を設けることで、産業界全体の学び直しが加速する可能性がある。

(引用終わり)

出典：「日鉄、学び直しへ 3 年休職制度」（『日本経済新聞』2022 年 8 月 15 日付）

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO63430430V10C22A8MM8000/>

（令和 4 年 9 月 1 日閲覧）

【資料 20】 リスキリングの場と機会の形成について

*経済産業省公式ウェブサイト内「第1回 デジタル時代の人材政策に関する検討会報告『デジタル人材に関する論点』」資料3より抜粋（令和3年2月4日）

(p.8)

3. 組織内外におけるリスキリング

【論点】

(3) リスキリングの場と機会の形成

- ・ OJT によるリスキリングの場が不足している。企業の垣根を超えて実践できる場づくりが必要ではないか。
- ・ リカレント教育（社会人大学院）もまだまだ少ない（フルタイムで仕事をしながら学ぶことが物理的に難しい）。
- ・ アメリカのように「転職」を前提として「大学院」に入ってスキルを取得する、といった流れが日本にはない。人材が、積極的に「学びなおす」ことを可能とする取組や仕組を検討してくべきはないか。

出典：経済産業省「第1回 デジタル時代の人材政策に関する検討会」内の「資料3 デジタル人材に関する論点」

https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_jinzai/pdf/001_03_00.pdf

（令和4年9月1日閲覧）

【資料 21】 修士・博士人材の官公庁での受け入れ

*内閣官房公式ウェブサイト 教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）本文」より抜粋

（提言本文 p.16-17）

～（2）学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受け入れ強化～

我が国は諸外国に比べて修士・博士の学位を有する高度な専門人材が少ない中、高い付加価値を生み出す修士・博士の育成・活躍に向けて、大学院教育の強化に取り組むとともに、卒業後の企業や官公庁での受け入れ強化を図る。

（中略）

< 具体的取組 >

⑥企業や官公庁における博士人材の採用・任用強化

・ 博士号取得者の企業・官公庁での採用・任用強化に向けた優良事例の普及啓発や国家公務員における待遇改善についての検討を進める。

・ 官公庁におけるインターンシップへの博士課程学生の参加を進める。

出典：内閣官房公式サイト

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/ikkatsu_dl.pdf

（令和 4 年 9 月 1 日閲覧）

【資料 22】 AI 戦略 2019

*内閣府公式ウェブサイト 「AI 戦略 2019」 より抜粋
(pp.9-13)

～AI 戦略【主な具体目標と取組】～

戦略目標の達成に向けて、「未来への基盤作り」、「産業・社会の基盤作り」、「倫理」の各分野（教育改革、研究開発、社会実装、データ、デジタル・ガバメント、中小・新興企業支援、社会原則）における各具体目標と取組を特定

「未来への基盤作り」

- ・教育改革

<主な具体目標>

・デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍

<主な取組>

- ・リテラシー：外部人材の積極登用、生徒一人に端末一台
- ・応用基礎：AI×専門分野のダブルメジャーの促進
- ・エキスパート：若手の海外挑戦拡充、AI 実践スクール制度
- ・優れた教育プログラムを政府が認定する制度の構築

→育成目標（2025 年）

- ・リテラシー：50 万人/年（大学・高専卒業生全員）・100 万人/年（高校卒業生全員・小中学生全員）
- ・応用基礎：25 万人/年（高校の一部・高専・大学の 50%）
- ・エキスパート：2,000 人/年
- ・トップクラス育成：100 人程度/年

出典：内閣府「AI 戦略 2019」

<https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/aistrategy2019.pdf>

（令和 4 年 9 月 1 日閲覧）

【資料 23】 AI 戦略 2022

*内閣府公式ウェブサイト 「AI 戦略 2022」 本文より抜粋
(p.31)

～第四部 「すべてに AI」 を目指した着実な取組

1. 教育改革

まずは、様々な社会課題と理科・数学の関係を早い段階からしっかりと理解し、理科・数学の力で解決する思考の経験が肝要である。その実現のためにも、児童生徒一人一人のための情報教育環境と教育を支援する校務支援システムを含む、学校の ICT インフラの拡充と、それを活かした教育を実践する。さらに、我が国が、諸外国に先んじて、新たな数理・データサイエンス・AI 教育を、Society 5.0 時代の教育のモデルとして構築することで、世界、特にアジア地域へ力強く発信していく。

出典：内閣府「AI 戦略 2022」

https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/aistrategy2022_honbun.pdf

(令和 4 年 9 月 1 日閲覧)

【資料 24】 滋賀大学大学院の事例

* 『大学時報』 No.404 内特集記事「大学等における“STEAM 教育”の取り組み」より抜粋
(p.36)

～データサイエンス学部における専門人材育成像—滋賀大学の育成方針と実績—

2.学部および大学院の現状

大学院においては、社会人のリカレント教育あるいはリスキリングの需要増、学部からの卒業生の輩出、他大学からの入学希望者増があり、スタート時の修士課程 20 名から、現在は博士前期課程 40 名、博士後期課程 3 名まで拡充している。試験も、主にデータサイエンス学部卒業生を対象にした早期特別入試（6 月）が加わり、本学部卒業生、他大学卒業生、企業派遣者の 3 つの受験者層が揃い、このことが入学後に良いシナジー効果を生んでいる。また、すべての講義（2 単位）を 1 週間で集中的に学ぶカリキュラム構成をとり、さらにオンラインと対面を併用することで、企業派遣の学生も受講しやすい授業になっており、この点は令和 3 年度大学機関別認証評価においても、優れた点として評価された。

出典：日本私立大学連盟『大学時報』第 404 号（2022 年 5 月発行）

<https://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/download/?issue=404>

（令和 4 年 9 月 1 日閲覧）